

太田川水系河川整備計画の目標及び対処方針について (説明資料)

平成20年7月30日

太田川河川事務所

目 次

I 太田川流域の概要及び河川整備基本方針の内容

1. 流域の概要 I-1
2. 主な洪水と治水事業の経緯 I-2
3. 自然環境 I-3
4. 空間環境 I-4
5. 太田川水系河川整備基本方針の概要 I-5

II 治水に関する目標及び対処方針

1. 治水に関する目標の考え方 II-1
2. 治水に関する目標の考え方 ～まとめ～ II-5
3. 基本方針の目標達成に向けた対応について II-6
4. 治水上の課題 II-7
5. 整備内容 II-11

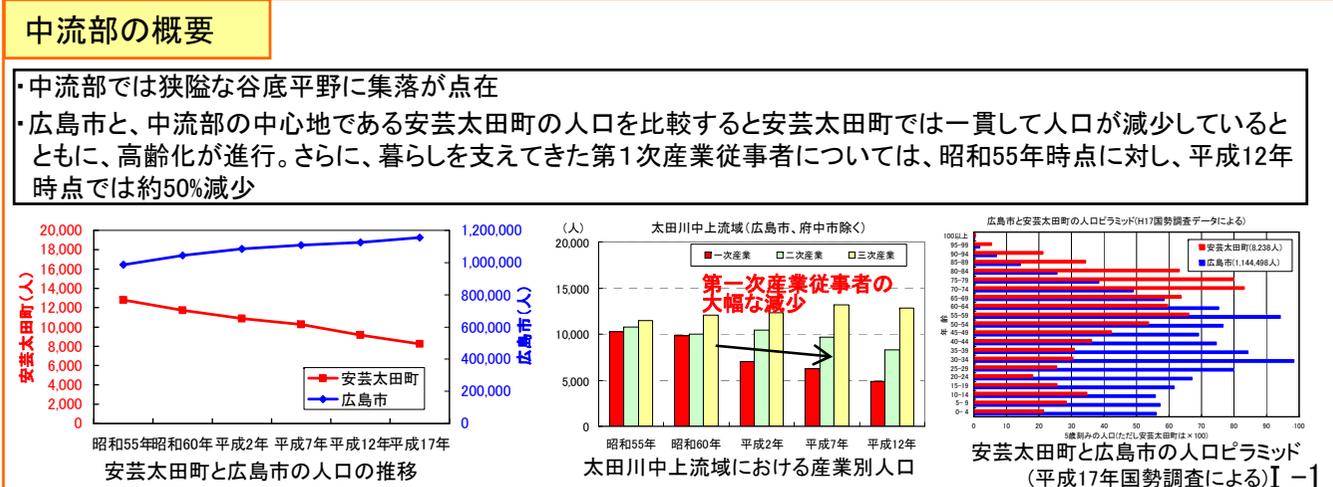
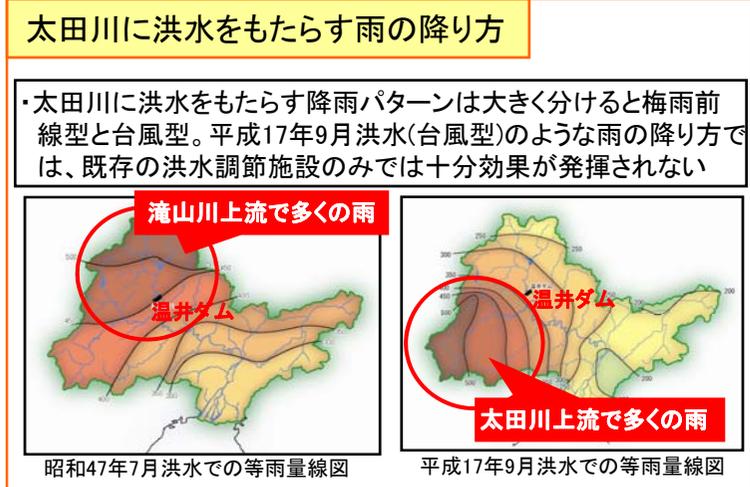
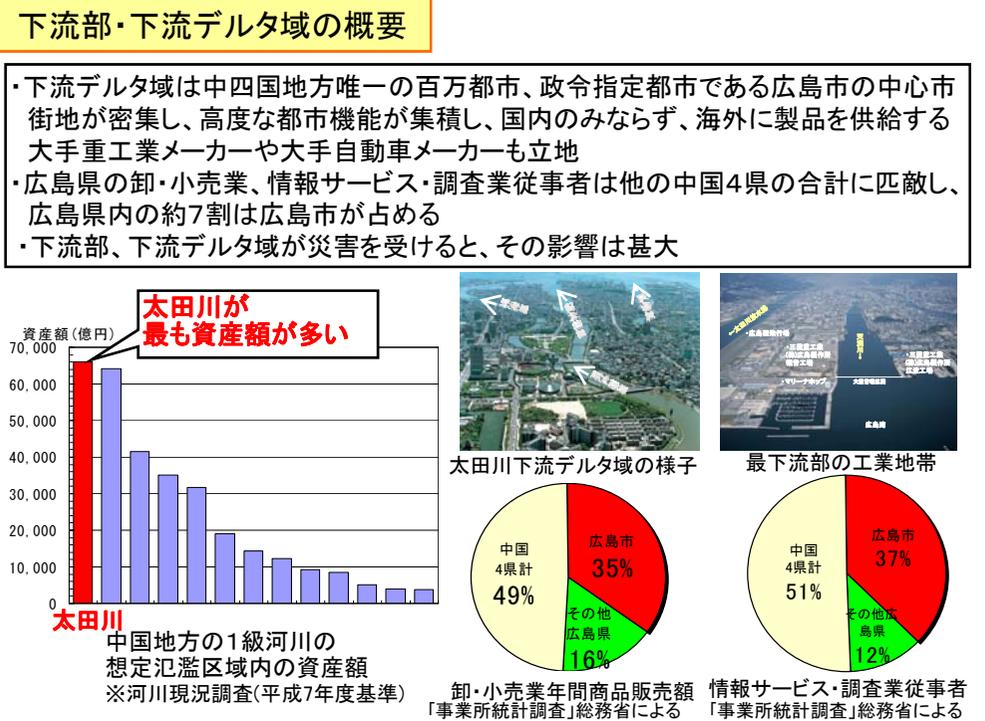
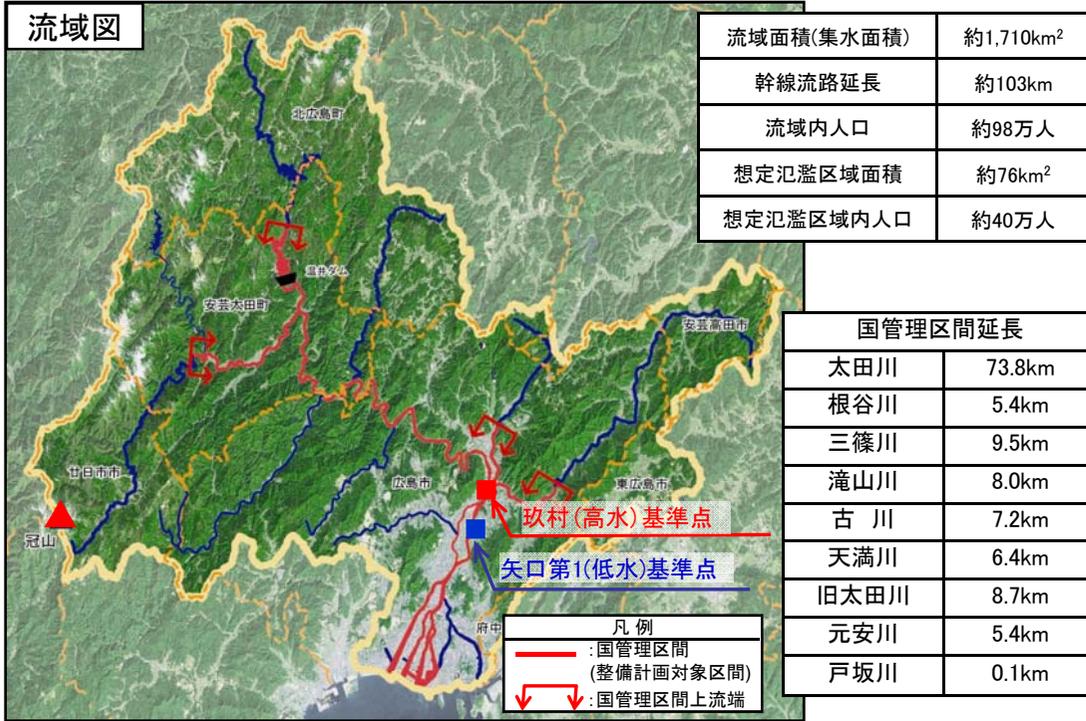
III 利水・環境・河川利用・河川管理・流域に関する対処方針

1. 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 III-1
2. 河川環境〈自然環境〉に関する事項 III-3
3. 河川環境〈景観〉に関する事項 III-5
4. 河川利用に関する事項 III-7
5. 河川管理に関する事項 III-9
6. 流域に関する事項 III-11

I 太田川流域の概要及び河川整備基本方針の内容

1.流域の概要

- 下流デルタ域は中四国地方唯一の百万都市、政令指定都市である広島市の中心市街地が密集し、高度な都市機能が集積
- 想定氾濫区域内の資産額は、中国地方の1級河川の中で最も多い
- 下流部、下流デルタ域が災害を受けると、その影響は甚大
- 平成17年9月洪水(台風型)のような降雨パターンでは、既存の洪水調節施設のみでは、雨の降り方によっては十分効果が発揮されない
- 中流域では狭隘な谷底平野に集落が点在。過疎化、高齢化等が進行



2. 主な洪水と治水事業の経緯

- 昭和18年9月洪水、昭和47年7月洪水、平成17年9月洪水など約30年毎に大出水。甚大な被害、特に平成17年9月洪水では観測史上最大の流量を記録(矢口第一:7,200m³/s)
- 戦前、戦中においては下流部、下流デルタ域でも甚大な浸水被害が発生したが、昭和40年の太田川放水路完成により、平成17年9月洪水発生以前の観測史上最大の流量を観測した昭和47年7月洪水では、玖村地点より下流における浸水被害が激減
- 昭和50年の高瀬堰の完成、平成13年の温井ダムの完成により、洪水に対する安全度が向上。将来目標に向け着実に治水安全度は上がりつつある
- しかし、中流部では狭隘な谷底平野に集落が点在。地形上洪水被害を受けやすく、度々浸水被害が発生。平成17年9月洪水では甚大な被害。

主な洪水と治水対策の一覧

嘉永3年(1850.7.7)
 流量:12,700m³/s(玖村地点、氾濫戻しによる推定流量)
 堤防決壊:22ヶ所、被災家屋:174戸
 明治43年 国の臨時治水調査会において第二期河川に指定

大正8年7月4日 被災家屋:2,611戸
大正12年6月21日 被災家屋:不明
昭和3年6月25日 被災家屋:916戸以上
 昭和7年 太田川改修計画 西原4,500m³/s

昭和18年9月20日(台風26号)
 流量:約6,700m³/s(西原)
 被災家屋:17,632戸

昭和20年9月18日(枕崎台風)
 流量:5,900m³/s(西原地点、氾濫後流量)
 水害区域面積:10,651町歩
 被災家屋:50,028戸(広島県内)

昭和23年 太田川改修計画改定 玖村6,000m³/s
昭和40年 太田川放水路通水開始(S7着手、S19中断、S26再開)

昭和47年7月(梅雨前線)
 流量:6,800m³/s(実績流量)
 水害区域面積:200ha、被災家屋:1,000戸

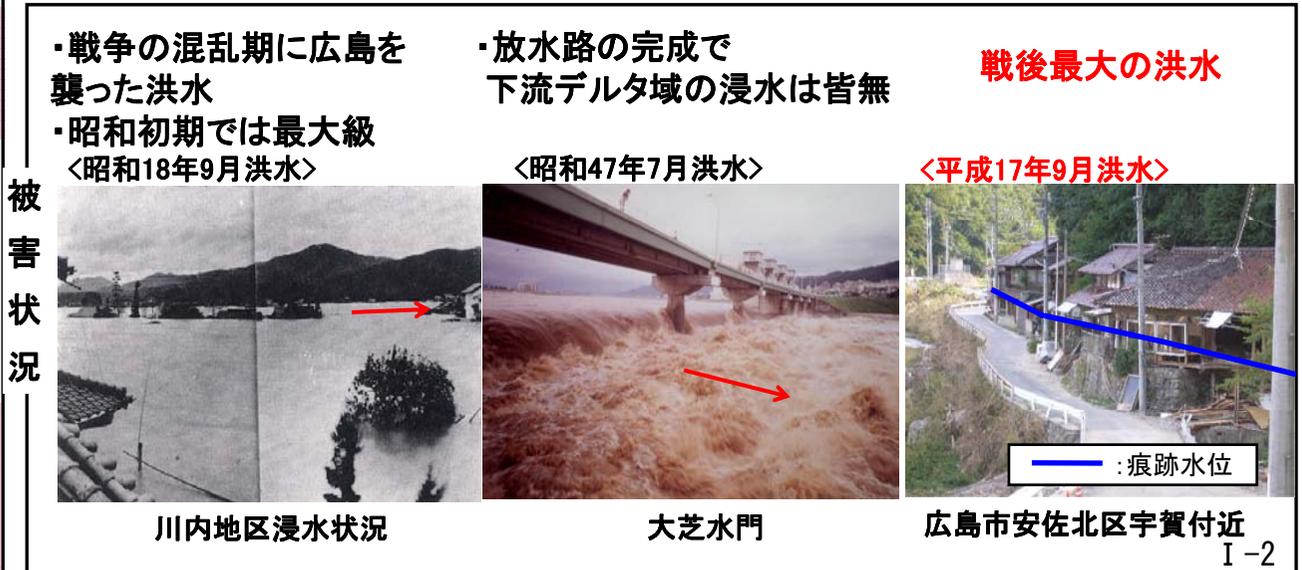
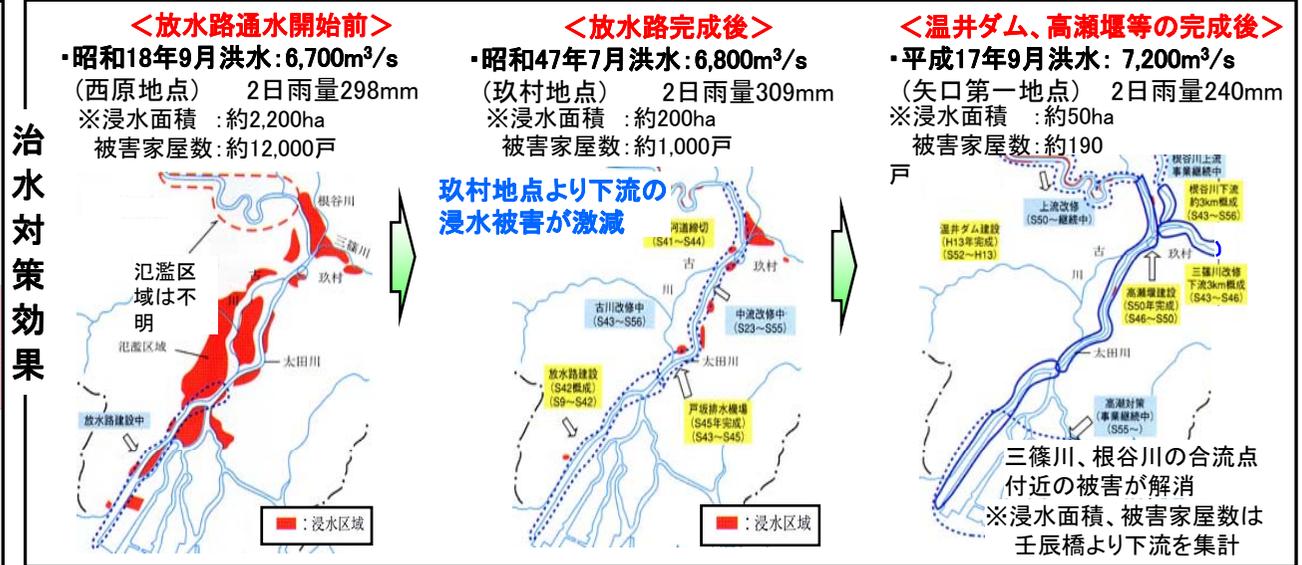
昭和50年 太田川水系工事実施基本計画
 玖村 基本高水のピーク流量 12,000m³/s
 計画高水流量 7,500m³/s

昭和50年 高瀬堰完成(S47着手)
平成11年6月29日(梅雨前線)
 流量:3,800m³/s(実績流量)
 水害区域面積:不明、床上浸水 110棟、床下浸水 193棟

平成14年 温井ダム完成(S52着手)
平成17年9月7日(台風14号)
 流量:7,200m³/s(実績流量)≒計画高水流量
 水害区域面積:130ha、
 床上浸水 247棟、床下浸水 154棟

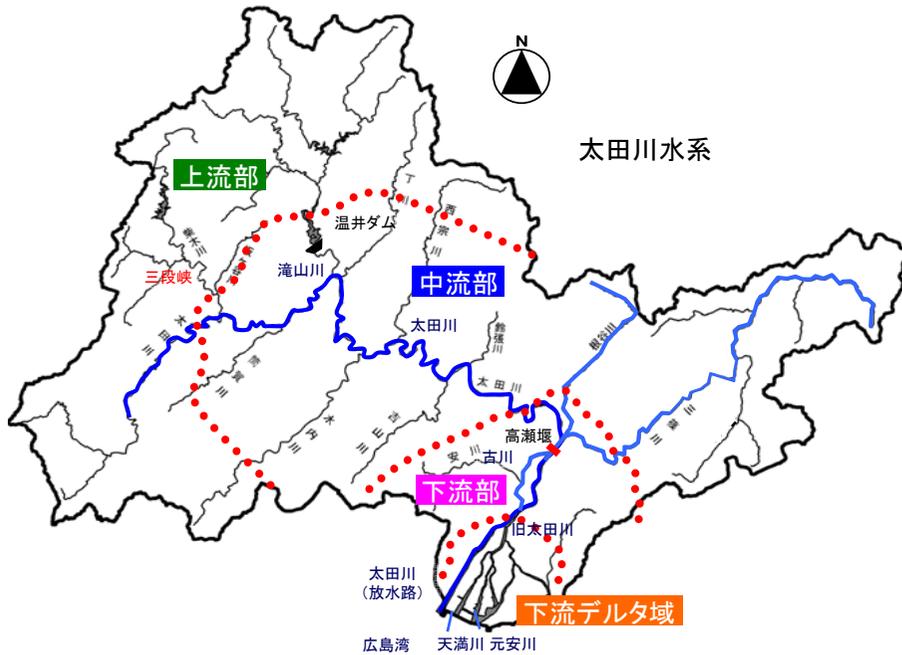
害約30年毎に大水

<過去の主要洪水の氾濫状況>



3.自然環境

■ 深い緑に包まれ、清らかな流れを育む上流部から、干潟に代表される塩性湿地が形成される下流デルタ域まで、それぞれの特徴に応じ、多様な自然環境が残る太田川



上流部

- ・河床勾配1/50~1/100程度で山地部を流れる渓谷
- ・三段峡に代表される美しい渓谷を形成
- ・山地はブナ原生林やミズナラからなる二次林
- ・川沿いの崖地ではヤマセミが営巣
- ・河畔林が発達し瀬と淵が連続する溪流ではアマゴ・カジカが生息



溪流を好むアマゴ

中流部

- ・河床勾配1/100~1/400程度で谷底平野で蛇行を繰り返す
- ・直近下流部まで都市化が進んでいるものの、今なお自然の豊かな地域
- ・瀬と淵が発達し、瀬はアユ等の良好な餌場
- ・緩流域の水際植生付近にはオヤニラミが生息
- ・礫河原にカワラハハコが、洪水時に冠水する岩場にはキシツツジが生育



良好な礫河原に生育するカワラハハコ



岩場に生育するキシツツジ



水際植生付近に多いオヤニラミ



瀬に生息するアユ



魚道を遡上するサツキマス

下流デルタ域

- ・河床勾配が1/2,000程度と非常に緩やかで、広島湾は瀬戸内海で最も干満差の激しい地域で大潮時には4mの水位差
- ・市内派川沿川は稠密に都市利用され、自然が非常に少ない中、放水路は通水後40年が経過し、従来の干潟環境を徐々に回復
- ・干潮時には河岸沿いに干潟が現れ、広島湾域で唯一まとまったハマサジ・フクド等の塩生植物群落を形成
- ・汽水域の上流側にはヤマトシジミが、下流側にはアサリが生息



河口干潟



塩生植物群落 (ハマサジ、フクド)



ヤマトシジミ(上)とアサリ(下)

下流部

- ・河床勾配1/400~1/1,000程度で平野が広がり、高水敷を形成
- ・河川沿川が急速に市街化
- ・なだらかな浮き石状の瀬はアユの産卵場
- ・ワンド状の止水、緩流部には、メダカやスジシマドジョウ、スナヤツメが生息



ワンド・緩流部



メダカ



スナヤツメ



スジシマドジョウ

魚類の遡上降下環境の確保

- ・平成3年度「魚がのぼりやすい川づくり」推進モデル事業実施河川として全国初の指定
→平成5~12年度魚道の設置・改良、サツキマス等回遊魚の遡上上限が改善(河口から本川約75kmが遡上可能に) 学識者・漁業関係者からも一定の評価
- ・高瀬堰をアユ仔魚が降下できるよう、堰を運用

4.空間環境

■上流から下流まで、川の特徴や利用目的に応じ、さまざまな利用が行われている

上・中流部

＜上流部＞

- ・溪谷状の上流部とその沿川には、豊かな自然環境が残り、変化に富んだ景観が存在
- ・三段峡や源流部の溪流などでは四季を通じて多くの観光客が訪問



溪流での魚とり

＜中流部＞

- ・大小の瀬や淵が多数存在し、アユ釣りが盛ん
- ・夏には水遊びなどを目的として多くの家族連れが訪問



アユ釣り

下流部

- ・下流部に形成された広い河川敷では親水空間が整備済
- ・各種イベントを数多く開催



古川せせらぎ公園



イカダ下り・カワニバル
撮影: 国本善平



太田川高水敷・野球場



堰のカヌー教室



地域の重要な観光資源になっている 温井ダム

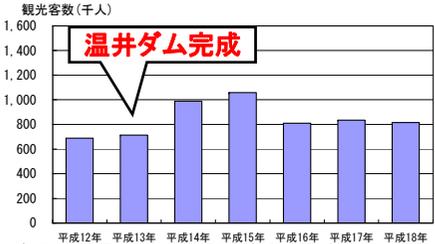
- ・温井ダム完成後(平成13年完成)、安芸太田町の観光客数が増加
- ・温井ダム建設中に開催された「温井ダムまつり」は平成14年より「龍姫湖まつり」として地域に定着
- ・温井ダムの観光放流(夏期制限水位への移行時)等では多くの観光客が訪問



龍姫湖まつり



温井ダム放流



観光客数(千人)

年	観光客数(千人)
平成12年	650
平成13年	700
平成14年	950
平成15年	1050
平成16年	800
平成17年	820
平成18年	800

安芸太田町の観光客数の推移(平成12年～平成18年)
出典: 地域再生計画(広島県、安芸太田町、北広島町)、ひろしま観光立県推進基本計画より作成

下流デルタ域

- ・沿川にある原爆ドームや平和記念公園などは、平和都市広島をイメージする特別な空間
- ・下流デルタ域の汽水域や広い干潟は、ハゼ釣りやシジミ採り等、市内派川の河岸緑道は散策等の市民利用が盛ん



シジミ採り



原爆ドームと灯ろう流し



市民レガッタ大会



河岸緑道の散策

地域の特性に応じた整備を求める意見

- ・川の魅力は、上流、中流、下流で違う顔を持つところだと思う。上流は自然をそのまま楽しみたいし、中流ではちょっとドライブに行ってほっとしたい。例えば、上流は自然のまま、中流は自然との交流、下流は地域との密着(イベント)のような整備が考えられる

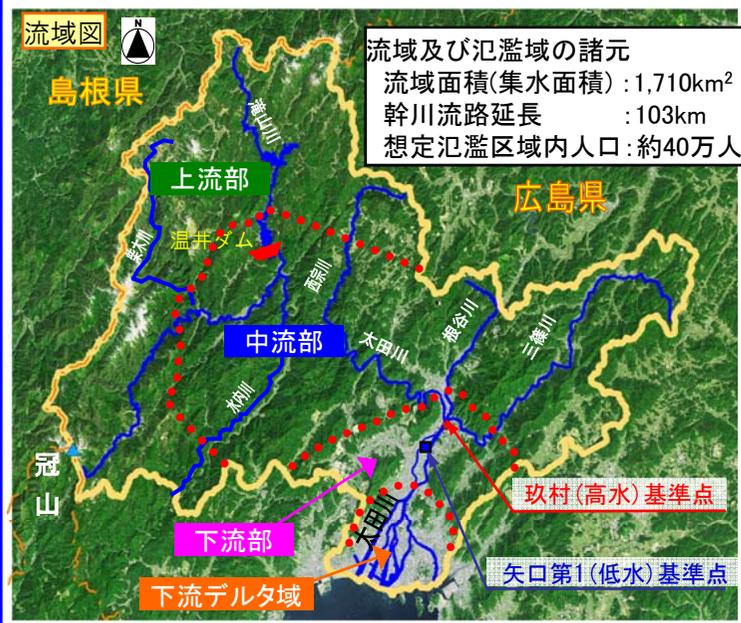
太田川 川づくりアンケート(H19.7～11)の自由意見より

5.太田川水系河川整備基本方針の概要

【平成19年3月30日策定】

流域及び氾濫域の概要

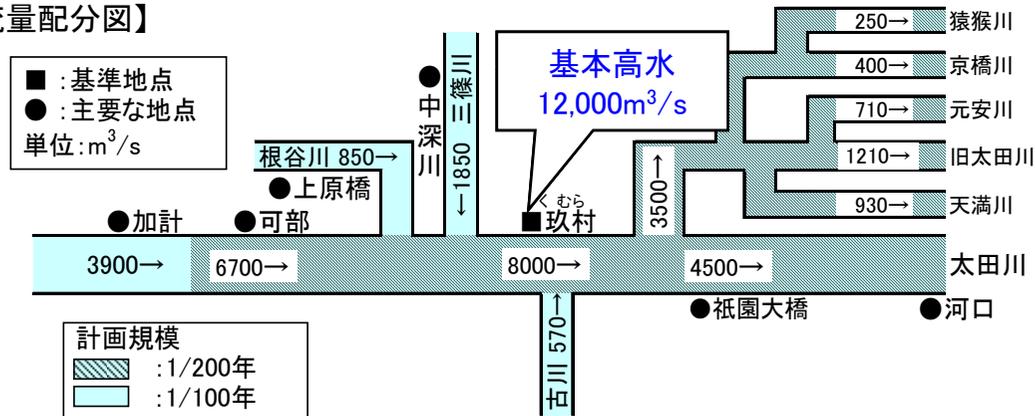
- 流域には中四国地方唯一の百万都市である広島市街地が形成され、中枢管理機能が集積
- 太田川下流デルタ域の市街地は江戸期～明治期に干拓により形成されたいわゆるゼロメートル地帯 洪水・高潮によりひとたび氾濫すれば被害は甚大



災害の発生防止又は軽減

- 工事実施基本計画策定後に計画を変更するような出水は発生しておらず、流量確率(1/200相当)や既往洪水の検証等を踏まえ、基本方針においても既定計画の基本高水ピーク流量12,000m³/s(玖村)を踏襲

【流量配分図】



- 太田川(放水路)、市内派川、高瀬堰地点等の流下能力を総合的に勘案し、計画高水流量を基準点玖村において8,000m³/s(既定計画7,500m³/s)と設定
- 基本高水流量と計画高水流量の差分については、上流既設ダムの有効利用等により対応
- 高潮対策については引き続き関係機関と連携・調整し、広島湾域として一体となって実施
- 中流部における床上浸水対策は、地域毎の地形特性・居住形態に応じて、
 ①連続堤の整備、②輪中堤の整備、③道路の嵩上げにあわせた宅地の嵩上げ等の対応

河川環境の整備と保全

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持

- 動植物の保護・漁業など9項目の検討により、維持流量を設定し、水利流量、流入量を含めて正常流量を矢口第1地点において概ね15m³/sに設定
- 発電等による減水区間の流況改善に向けた取り組みを関係機関の協力のもとに継続



瀬(減水区間)

- 自然豊かな河川環境を保全、継承
- 市内派川を含む河口域では、国・県・市が協力して「水の都ひろしま」構想を基に、水辺の賑わいをもたらす活動の支援を実施
- アユ、サツキマス等の回遊魚が生活史を支えるため縦断的な生息環境を確保
- 多様な動植物の生息場としての干潟環境の保全・確保



干潟・塩生植物群落



オープンカフェ 公共空間の多目的利用を目指す社会実験 京橋川

Ⅱ 治水に関する目標及び対処方針

1.治水に関する目標の考え方(洪水)

頻発する洪水被害

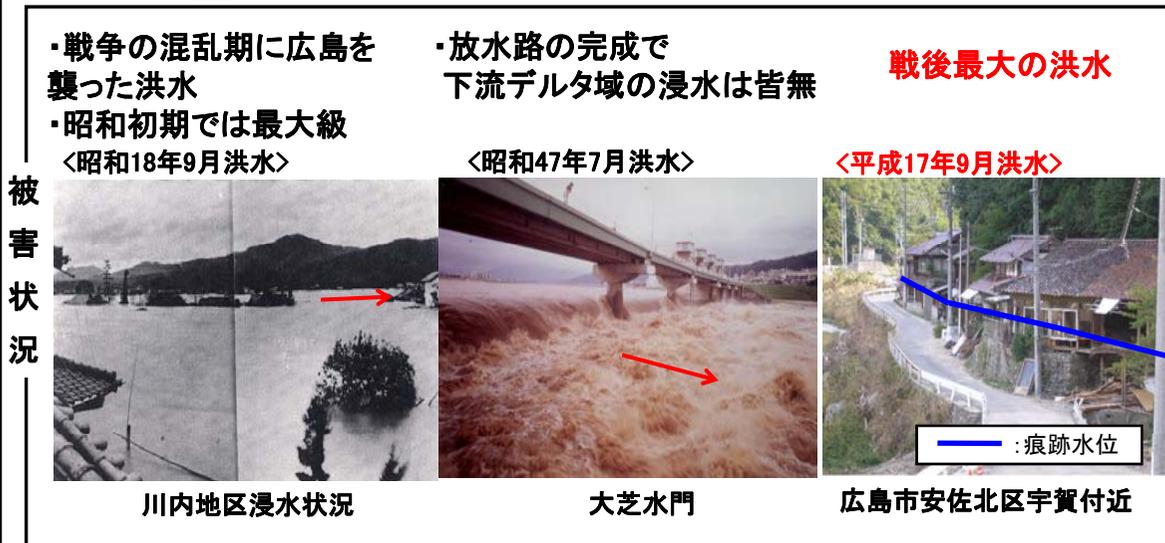
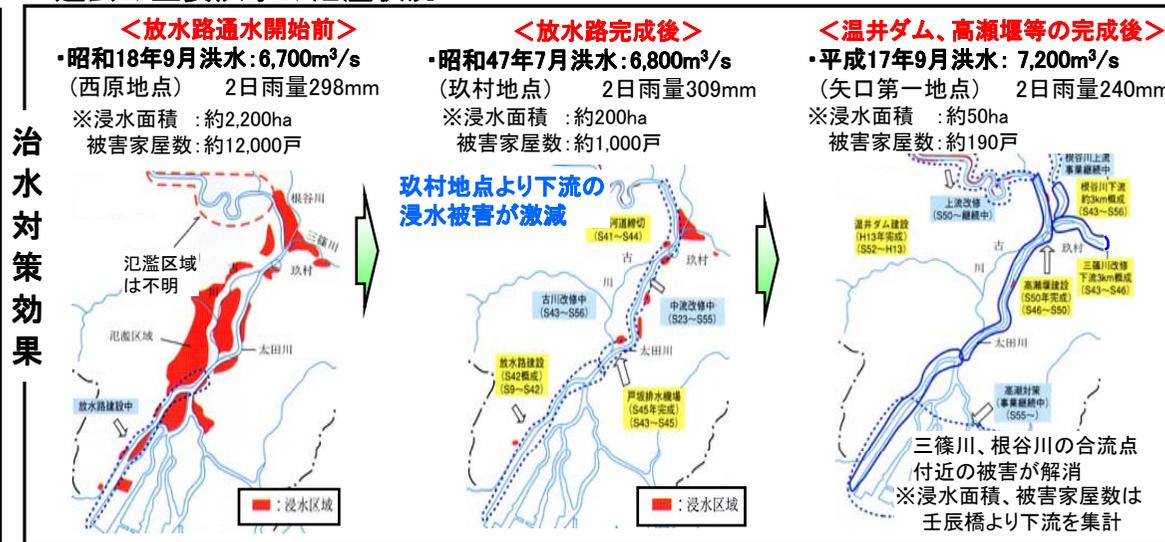
太田川では、過去から現在に至るまで洪水被害が多く発生。

近年でもH17.9月に戦後最大の洪水が発生し、中流部では大きな被害が発生。

主な洪水と治水対策の一覧

<p>嘉永3年(1850.7.7) 流量: 12,700m³/s(玖村地点、氾濫戻しによる推定流量) 堤防決壊: 22ヶ所、被災家屋: 174戸 明治43年 国の臨時治水調査会において第二期河川に指定 大正8年7月4日 被災家屋: 2,611戸 大正12年6月21日 被災家屋: 不明 昭和3年6月25日 被災家屋: 916戸以上 昭和7年 太田川改修計画 西原4,500m³/s</p>	約30年毎に大水害
<p>昭和18年9月20日(台風26号) 流量: 約6,700m³/s(西原) 被災家屋: 17,632戸 昭和20年9月18日(枕崎台風) 流量: 5,900m³/s(西原地点、氾濫後流量) 水害区域面積: 10,651町歩 被災家屋: 50,028戸(広島県内) 昭和23年 太田川改修計画改定 玖村6,000m³/s 昭和40年 太田川放水路通水開始(S7着手、S19中断、S26再開)</p>	
<p>昭和47年7月(梅雨前線) 流量: 6,800m³/s(実績流量) 水害区域面積: 200ha、被災家屋: 1,000戸 昭和50年 太田川水系工事実施基本計画 玖村 基本高水のピーク流量 12,000m³/s 計画高水流量 7,500m³/s 昭和50年 高瀬堰完成(S47着手) 平成11年6月29日(梅雨前線) 流量: 3,800m³/s(実績流量) 水害区域面積: 不明、床上浸水 110棟、床下浸水 193棟 平成14年 温井ダム完成(S52着手)</p>	
<p>平成17年9月7日(台風14号) 流量: 7,200m³/s(実績流量)≒計画高水流量 水害区域面積: 130ha、 床上浸水 247棟、床下浸水 154棟</p>	

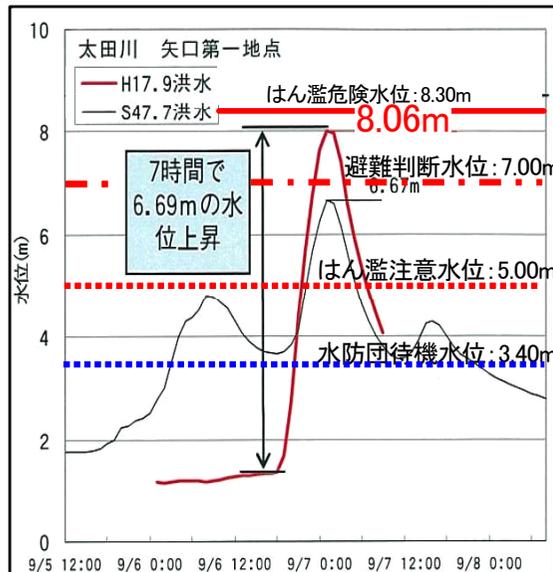
<過去の主要洪水の氾濫状況>



1.治水に関する目標の考え方(洪水)

- ・H17.9洪水では下流の矢口第一地点で、はん濫危険水位ぎりぎりまで水位が上昇(矢口第一地点:7,200m³/s)。
- ・下流デルタ域及び下流部では、H17.9洪水の出水状況、都市機能が集積した市街地を流れる現状、アンケート結果を考慮して、まずは河川整備基本方針の計画高水流量(玖村地点:8,000m³/s)の整備を行う。

H17.9洪水でははん濫危険水位ぎりぎり



H17.9月洪水では、8.06mまで水位が上昇
 氾濫危険水位まで残り24cm

玖村地点で8,000m³/sが流下した場合に、現在の河道において、安全に流下できる能力が不足している箇所が破堤したと仮定

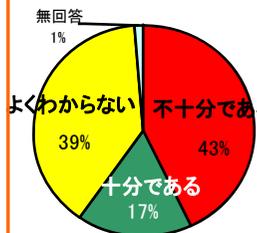


8,000m³/s流下時の浸水想定エリア

アンケート結果(下流部在住者)

太田川 川づくり
 アンケート(H19.7~11)

Q. 太田川の災害対策について



治水対策は十分17%に対し、不十分が43%。倍以上の人が災害対策は不十分と答える。

【下流デルタ域・下流部在住の方の主な自由意見】

- ・危険が多すぎる。場当たりの対策しかしていない。
- ・まずは治水機能の充実化、次に自然環境保全と親水性の充実化。
- ・災害には十分耐えられない状態のようで不安である。
- ・治水機能を高めつつ、環境に配慮した親しめる川にして欲しい。
- ・毎年台風が多いのでまず第一に災害対策を。
- ・一昨年の台風の時、堤防を水が越えるのではと不安だった。
- ・水害に弱い。台風、大雨でよく被害が出る。

自由意見でも、さらなる治水対策の充実を希望する意見が多数寄せられる

下流デルタ域には高度な都市機能が集積

- ・下流デルタ域は中四国地方唯一の百万都市、政令指定都市である広島市の中心市街地が密集し、高度な都市機能が集積
- ・国内のみならず、海外に製品を供給する大手重工業メーカーや大手自動車メーカーが立地
- ・災害により社会経済活動が麻痺すれば、影響は県内だけでなく、国内そして海外にまで及ぶ



太田川下流デルタ域の様子



広島湾から見た太田川下流の様子
 河口部には工業地帯、沿川には稠密に市街地が形成

下流部は河川沿いの平野部に多くの住宅が立ち並ぶ

- ・下流部(6k~19.2k付近)は、河川沿いの平野部に多くの住宅が並び住宅街
- ・ひとたび氾濫が生じると広い範囲に被害がおよび多くの住宅が浸水



古川合流点(8k付近)から上流の様子

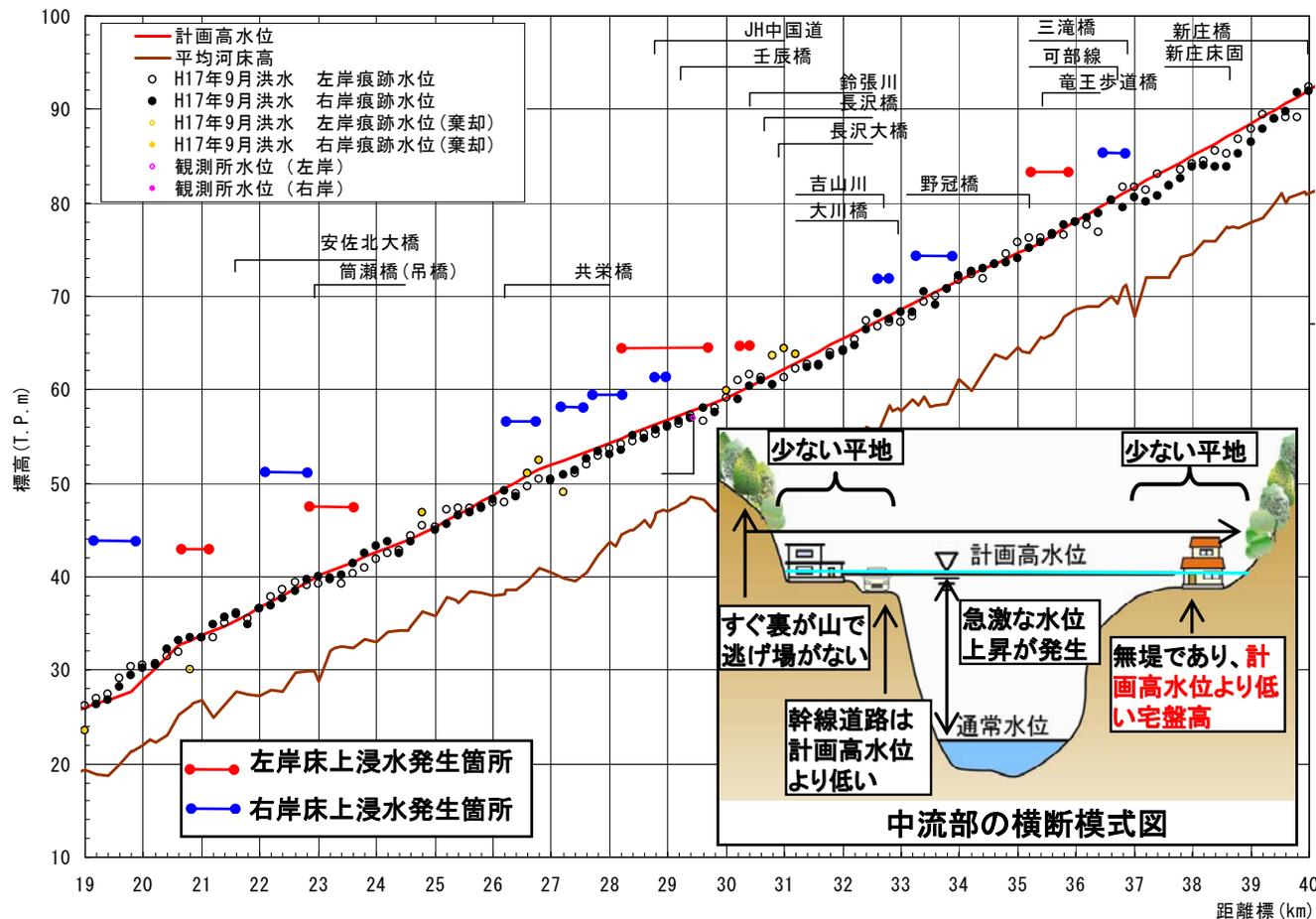


根谷川合流点(15k付近)から上流の様子

1.治水に関する目標の考え方(洪水)

- ・中流部では計画高水流量規模の洪水が発生しても、床上浸水被害等の重大な家屋浸水被害を防止し、床下浸水等の家屋浸水被害を低減する。
- ・支川(古川、三篠川、根谷川)では、戦後最大流量規模を安全に流下させることを目指す。なお、上流の整備状況も勘案する。

H17.9洪水において中流部では計画高水位程度まで水位が上昇し、多くの家屋被害が発生



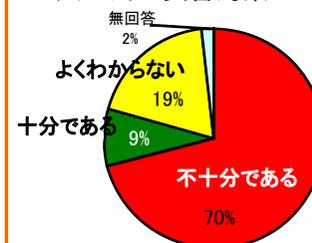
- ・H17.9洪水で家屋の床上浸水被害が発生しており早急な対策が必要
- ・計画高水位程度もしくは、計画高水位より低い水位で床上浸水被害が発生
- ・床上浸水被害の箇所が長い区間にわたる

短期間で、家屋被害等の重大な被害の発生を防ぐ効率的な対策が必要

アンケート結果(中流部在住者)

太田川 川づくり
アンケート(H19.7~11)

Q. 太田川の災害対策について



治水対策は不十分であるが70%であり、ほとんどの人が現在の整備状況は不十分と考えている。

【中流部に関する主な自由意見】

- ・上流域は万全ではないのでは？上流域の整備を。
- ・上流や中流の地域はまだ安心していられないところがあるのでは？
- ・H11、13、16、17、18年災害が発生して被害が多すぎる。

中流、上流では被害が頻発している現状に不安があり、早急なる対策が望まれている

支川

古川、三篠川、根谷川の現状流下能力は、戦後最大流量に対しても大きく不足しており、段階的に整備していくことが必要



古川 : 戦後最大流量規模(S20.9; 450m³/s)
 三篠川 : 戦後最大流量(S47.7; 1,200m³/s)
 根谷川 : 戦後最大流量(H18.9; 460m³/s)→550m³/s
 (上流の整備状況をふまえ総合的に勘案)

1.治水に関する目標の考え方(高潮)

- ・伊勢湾台風規模の台風が台風期の朔望平均満潮時に広島湾に最も危険なコース(昭和26年10月ルース台風)を通過した場合に生じる高潮に対しても、越波は生じるものの甚大な被害が発生しないことを目指す。
- ・計画高潮位(T.P.+4.4m)を目指して整備を進める。

近年でも高潮による被害が頻発

平成3年9月(台風19号)

最高潮位:T.P.+2.91m 偏差:1.81m
床上浸水:423戸 床下浸水:1,220戸

平成11年9月(台風18号)

最高潮位:T.P.+2.74m 偏差:1.84m
床上浸水:216戸 床下浸水:202戸

平成16年8月(台風16号)

最高潮位:T.P.+2.78m 偏差:1.79m
床上浸水:1戸 床下浸水:16戸

平成16年9月(台風18号) 既往最高潮位

最高潮位:T.P.+2.96m 偏差:2.09m
床上浸水:86戸 床下浸水:92戸



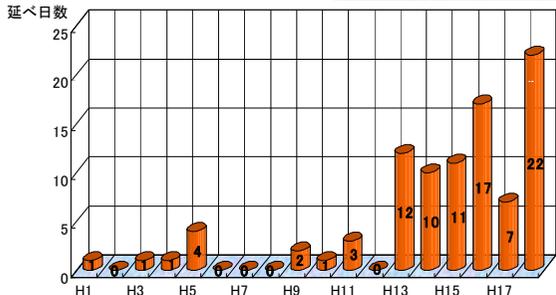
平成16年高潮による
浸水状況(出島付近)

厳島神社の冠水頻度が増加

- ・近年の海面水位の上昇傾向や、黒潮流路の蛇行による異常潮の影響により、瀬戸内海における潮位は高くなる傾向
- ・上記により厳島神社の冠水頻度は近年急増



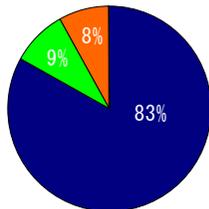
異常潮位により冠水する
厳島神社の回廊



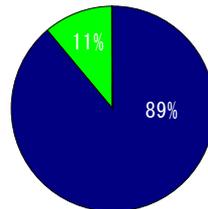
厳島神社回廊の冠水回数の推移
(社務日誌より整備局で作成)

低い高潮対策の整備率

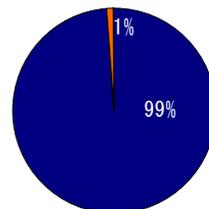
- ・高潮対策は一定の成果が見られるが、整備水準は全国に比較し遅れている



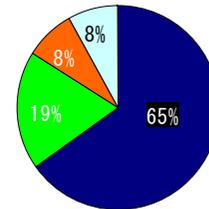
【東京湾:307km】



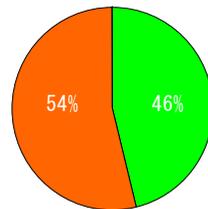
【伊勢湾:141km】



【大阪湾:182km】



【全国:15,061km】



【広島湾:68km】

※出典:
国土交通省「ゼロメートル地帯の高潮対策検討会」資料に広島湾情報を補足

注)整備率は
平成16年度末時点

凡例	
■ (Blue)	: 堤防高が充足
■ (Green)	: 暫定的な計画高潮位対応
■ (Orange)	: 堤防高が不足
■ (Light Blue)	: 不明

【高潮対策の必要性】

- ・近年でも高潮による被害が頻発(海面水位の上昇により瀬戸内海における潮位は上昇傾向)
- ・広島湾の高潮対策の整備率は、全国的に見ても低い
- ・住民意見でも高潮対策の遅れを感じ、対策を望む声が寄せられている



【現況の整備率は低く段階的な整備が必要】

平成3年、平成11年、平成16年の高潮災害を鑑み、第2段階(T.P.+3.4m)整備を優先して概成



【計画高潮位での対策の完成を目指す】

河口域から順に第3段階(計画高潮位:T.P.+4.4m)の完成を目指す

アンケート結果(高潮)

太田川 川づくり
アンケート(H19.7~11)

【高潮に関する主な自由意見】

- ・人口密集地区に対する高潮対策が遅れているように感じる。
- ・洪水による浸水災害は少ないと感じるが、高潮に対する災害対策は不備と思われる。

住民意見でも高潮対策の遅れを感じる意見があり、さらなる対策が必要

2.治水に関する目標の考え方～まとめ～

太田川流域の治水に関する現状

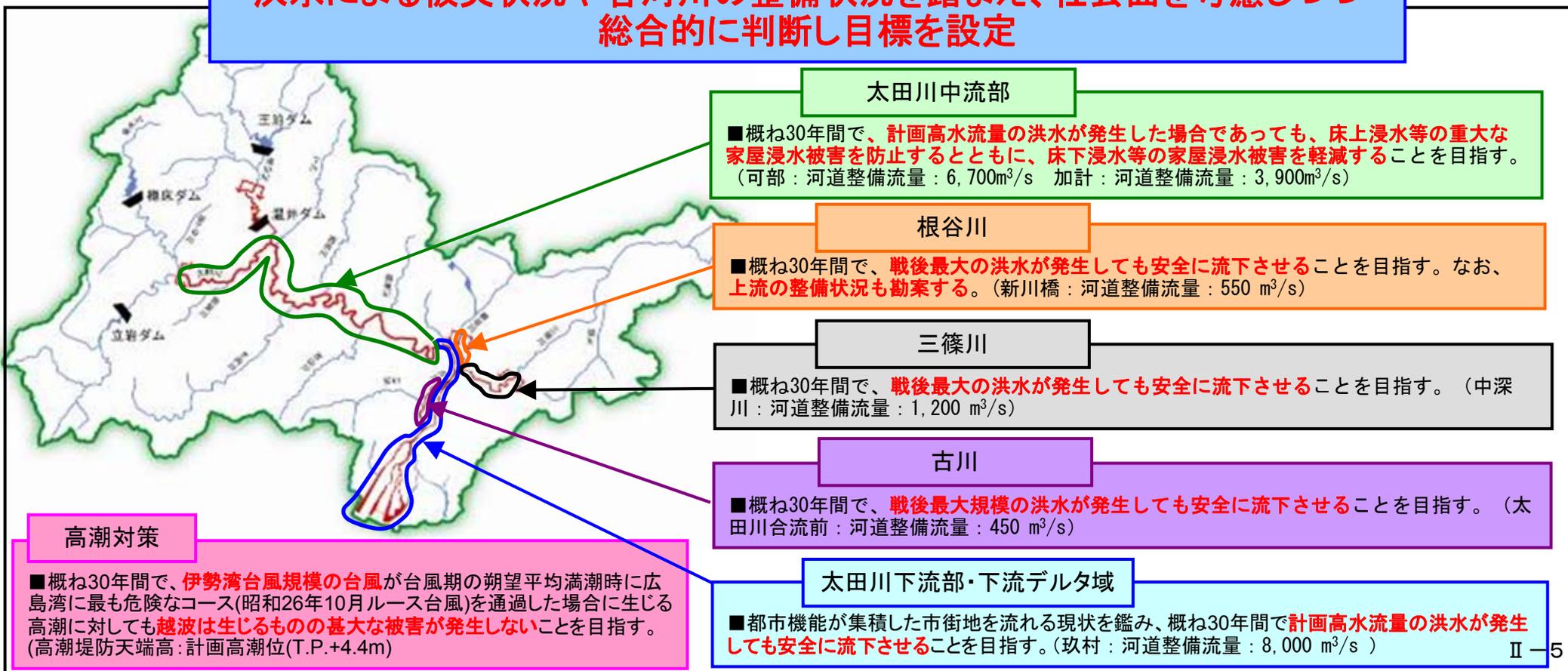
洪水

- ・平成17年9月洪水は下流部で、はん濫危険水位ぎりぎりまで水位が上昇。狭隘な谷底平野に集落がある中流部では甚大な浸水被害が発生。
- ・支川（古川、三篠、根谷川）は、戦後最大洪水に対しても流下能力が不足。
- ・広島湾の高潮対策は、三大湾と比較して遅れており、近年で被害が頻発。

流域

- ・下流デルタ域は、中四国地方唯一の百万都市である広島市の中心市街地で高度な都市機能が集中し、被災すれば国内外に影響が及ぶ。
- ・中流部は、堤防の未整備区間が多い上、谷底地形であり急激な水位上昇を生じやすい。

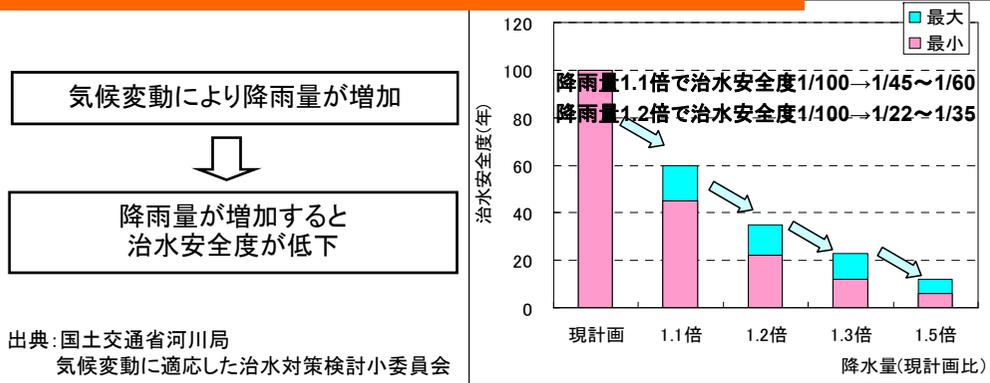
洪水による被災状況や各河川の整備状況を踏まえ、社会面を考慮しつつ総合的に判断し目標を設定



3.基本方針の目標達成に向けた対応について(洪水調節施設)

・基本方針における目標達成に必要な洪水調節施設整備に向け、上流域における洪水調節施設に関する調査・検討を行う。

気候変動により降雨量が増加して治水安全度が低下



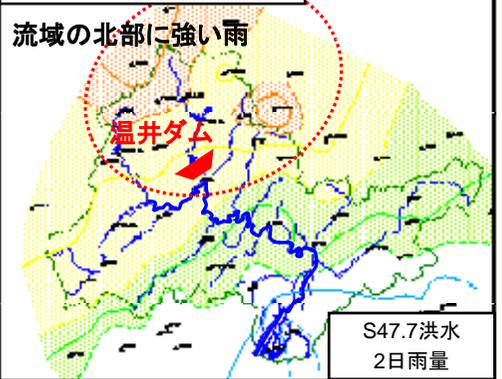
・十分でない洪水調節施設(洪水調節容量を有するのは温井ダムのみ)
・既存の洪水調節施設のみでは、雨の降り方によっては十分な効果が発揮できない

・前線性降雨は流域北部、台風は流域西部～西北部に強い雨
・温井ダムはH17年9月洪水のような台風型の降雨パターンでは大きな効果の発現は困難

台風による降雨の代表例



前線性降雨の代表例



H17.9月降雨で雨がもう少し降っていたら下流部でも恐ろしい被害

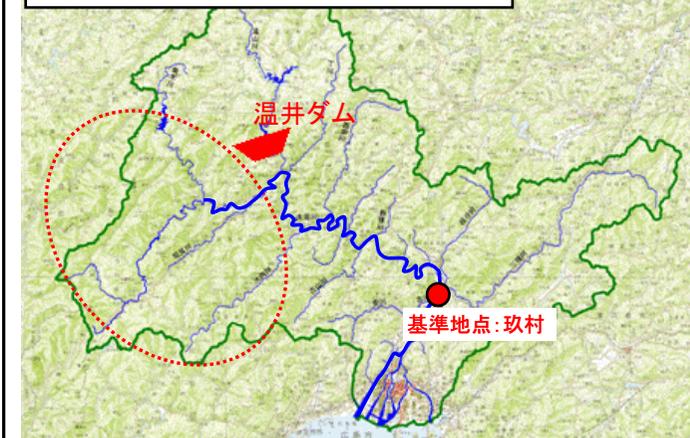
・H17.9月降雨でもし、大雨がもう少し(1.2倍)降っていたら下流でも大きな被害が発生
・他都市ではH17.9月洪水で市街地が浸水

平成17年9月7日洪水の実績雨量を約1.2倍した時の浸水想定区域



上流域において洪水調節施設に関する調査・検討を行う

西部・西北部の洪水調節施設の候補



北部には
温井ダムが存在

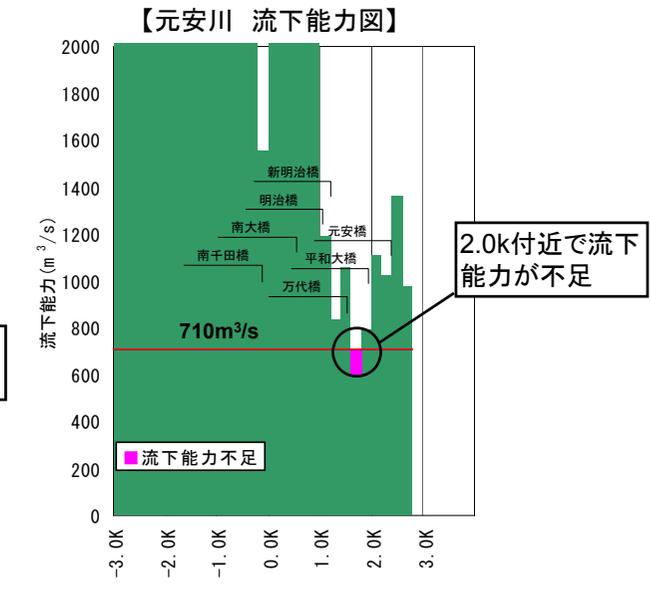
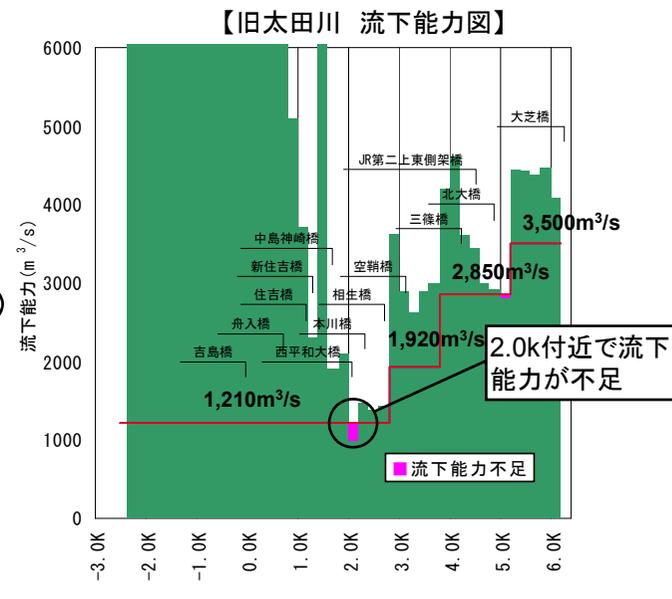
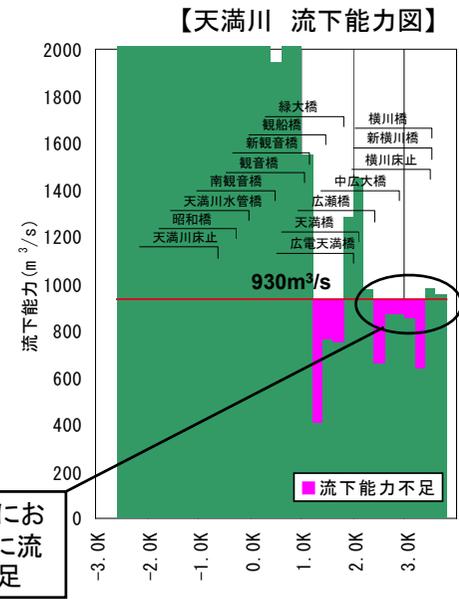
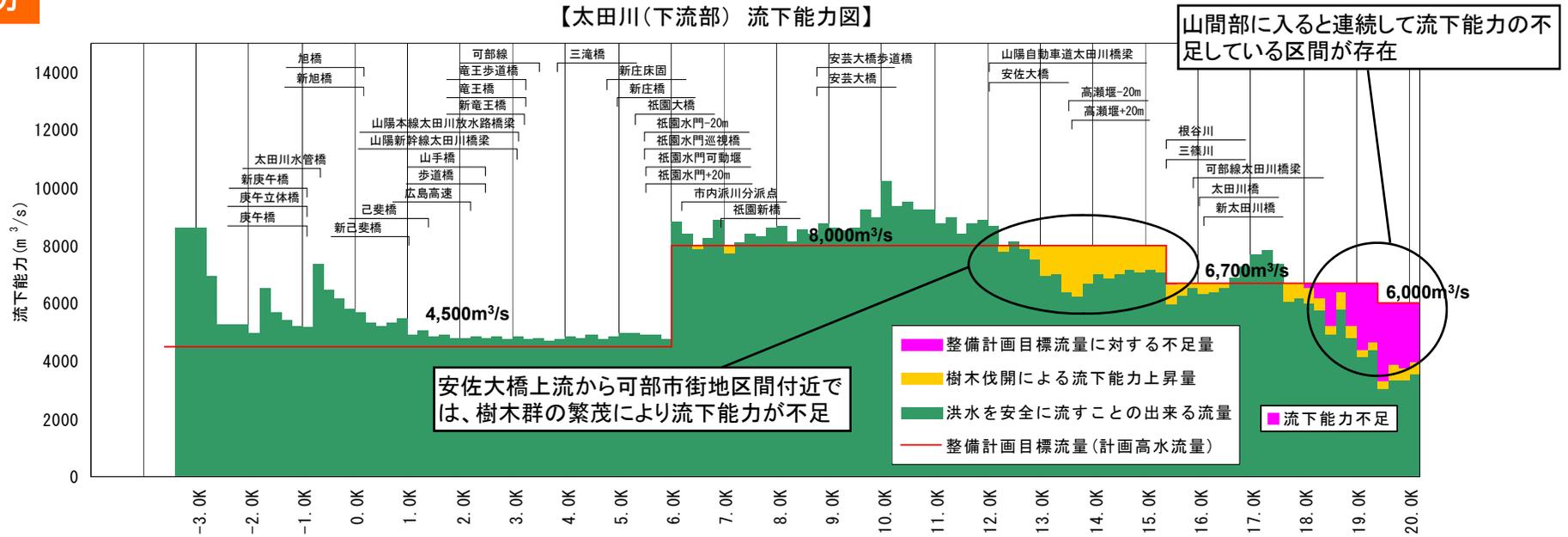
↓

洪水調節施設は流域の
西部・西北部が有利

4.治水上の課題(洪水)

治水に関する現状・課題

現況流下能力

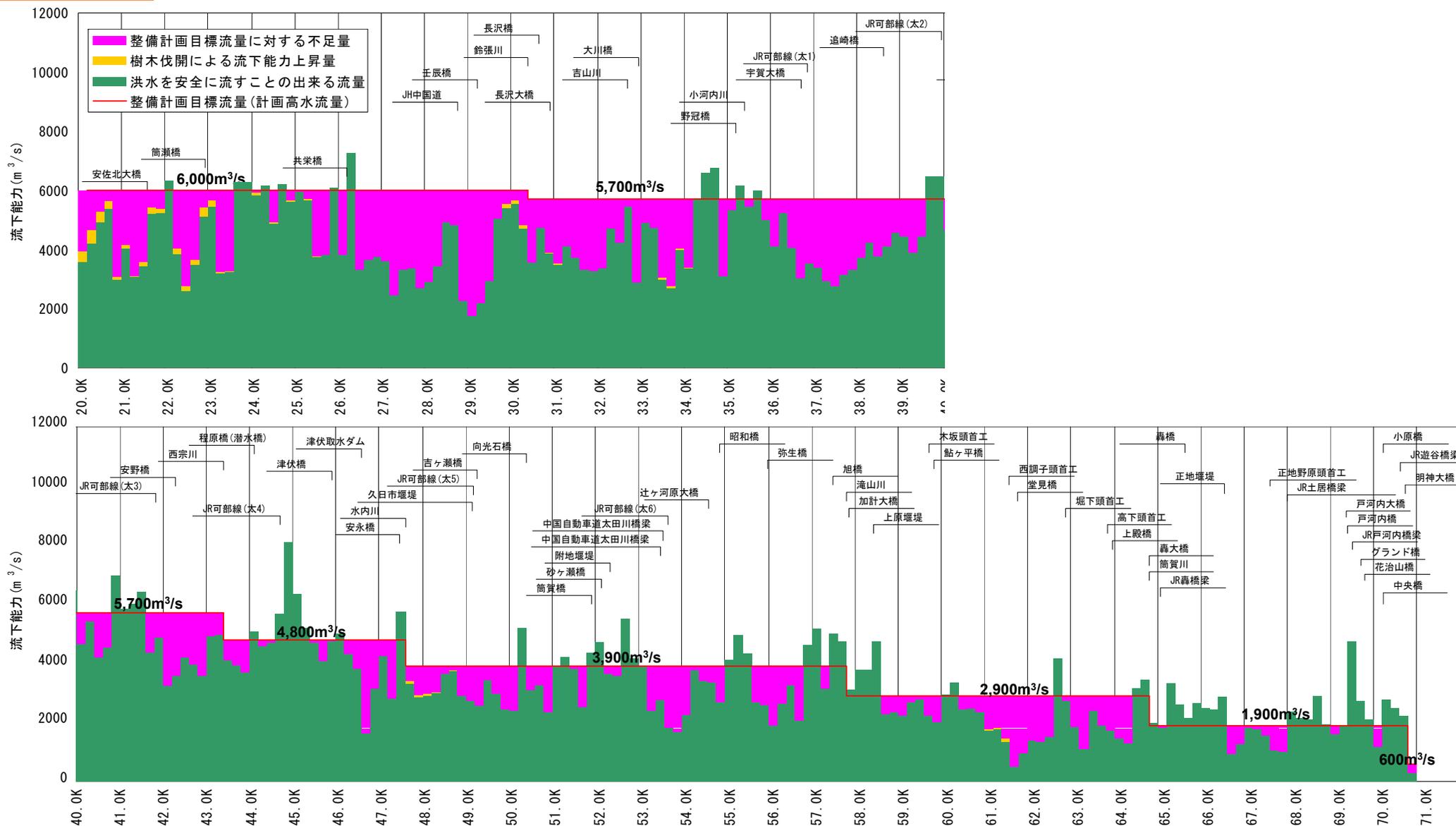


4.治水上の課題(洪水)

治水に関する現状・課題

現況流下能力

【太田川(中流部) 流下能力図】

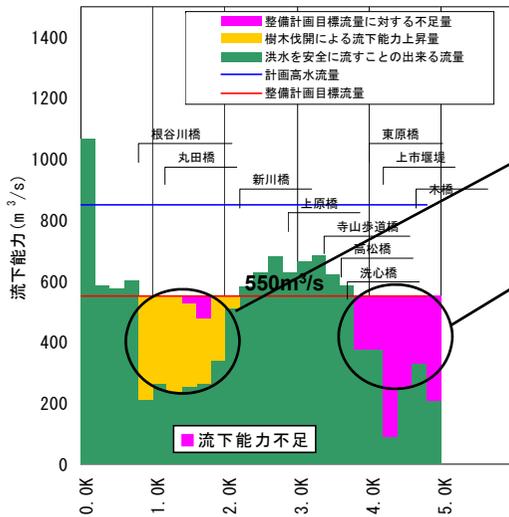


4.治水上の課題(洪水)

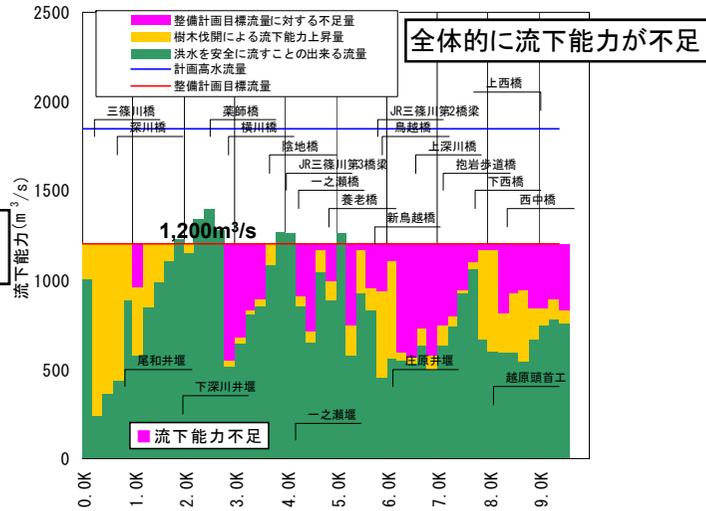
治水に関する現状・課題

現況流下能力

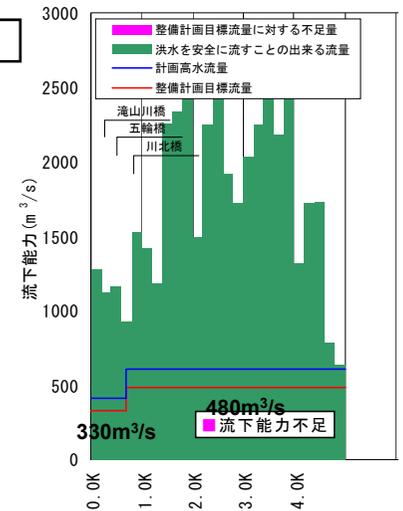
【根谷川 流下能力図】



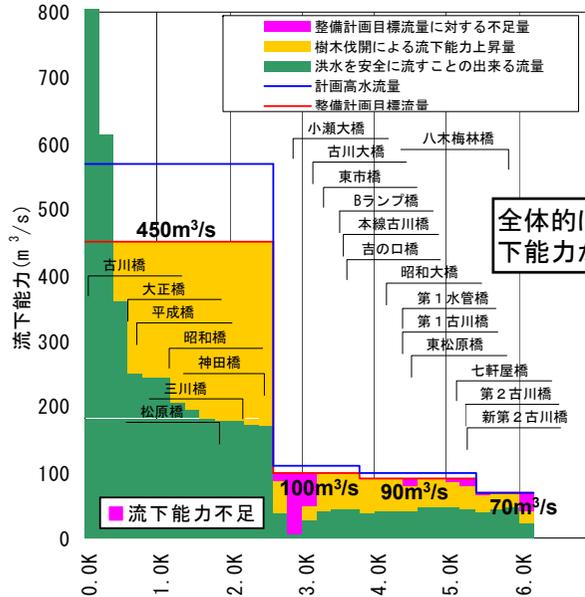
【三篠川 流下能力図】



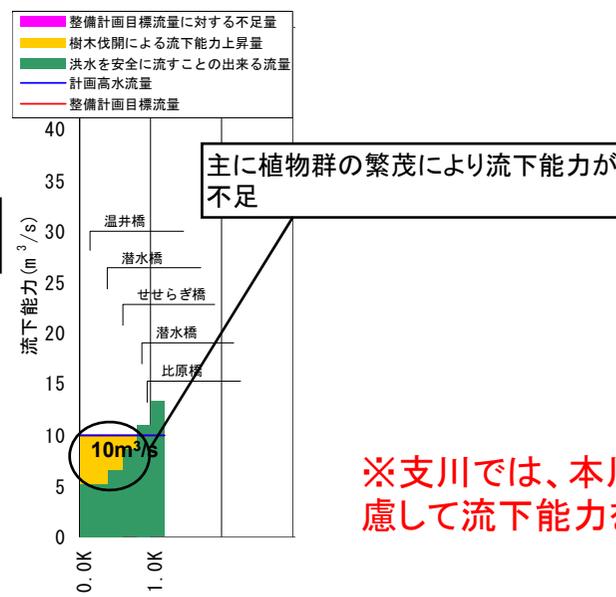
【滝山川 流下能力図】



【第1古川 流下能力図】



【第2古川 流下能力図】



※支川では、本川からの逆流の影響も考慮して流下能力を評価している

4.治水上の課題(高潮・地震)

- ・もしも、ひとつでも条件が違っていたら市街地が水没していた(H19年8月の台風5号が平成16年の台風18号と同じ規模コースであったら)。
- ・脆弱地盤に形成された下流デルタ域は、地震により河川管理施設の被災、交通網寸断の恐れがある。

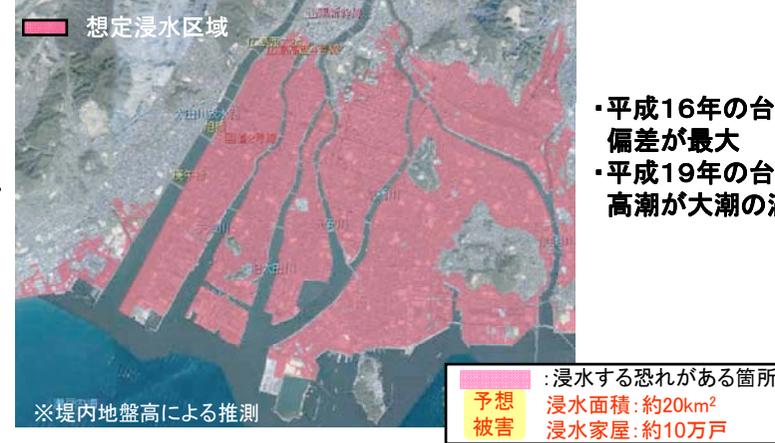
高潮対策の現状と課題

もし、平成19年8月の台風5号が、平成16年の台風18号と同じ規模・コースであったら市街地が水没

【平成16年9月の台風18号による浸水被害状況】



【想定浸水被害区域】(平成19年8月の台風5号来襲時の天文潮位に、平成16年9月の台風18号来襲時の偏差が重なった場合)



- ・平成16年の台風18号は偏差が最大
- ・平成19年の台風5号は高潮が大潮の満潮と重なる



もし、浸水したら...

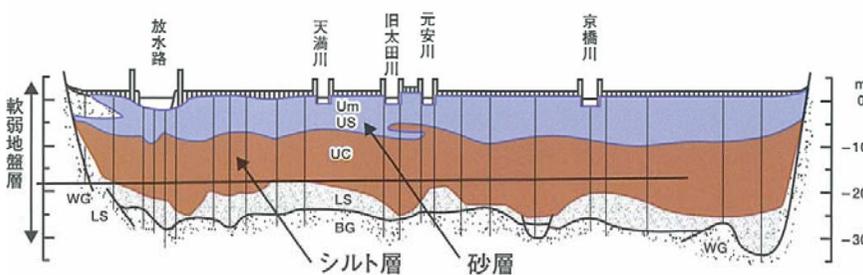


1.6m浸水した場合のイメージ
国道2号 広島市西区南観音

地震対策の現状と課題

脆弱な地盤の下流デルタ域

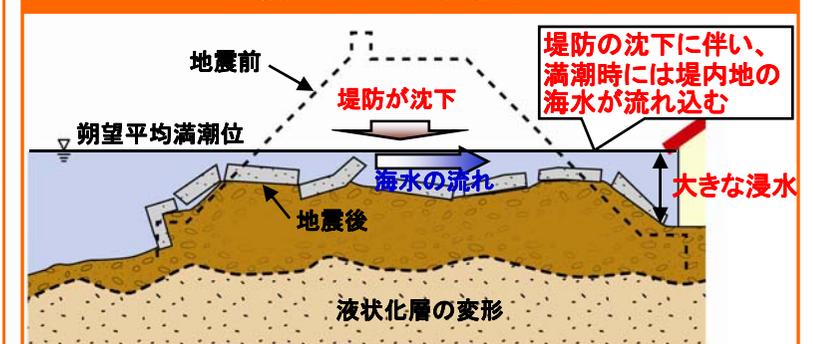
- ・下流デルタ域は、深さ約30mに渡り脆弱な地盤
- ・表層は深さ約10mに渡り砂層
- ・このような脆弱な地盤の上に堤防などの河川管理施設を築造



ひとたび被災すると

- ・市街地が密集している下流デルタ域において交通網が寸断される恐れがある。
- ・計画高水位や期望平均満潮位より地盤高が低く、河川管理施設が被災することにより二次災害の恐れがある。

地震による二次災害想定図



液状化による地盤の沈下の概要図

5.整備内容(1)

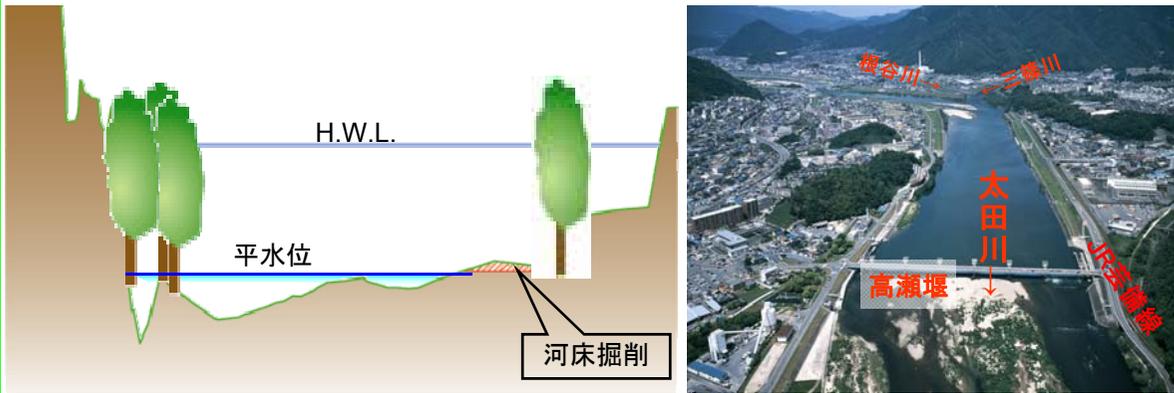
太田川下流部・下流デルタ域

【方針】河川整備基本方針で定めた計画高水流量：8,000m³/s(基準地点“玖村”)が安全に流下できるよう河川整備を実施

【整備メニュー】

河床掘削、堤防整備、堤防質的整備、大芝・祇園水門改築

○河床掘削（三篠川・根谷川合流後）



○大芝、祇園水門改築

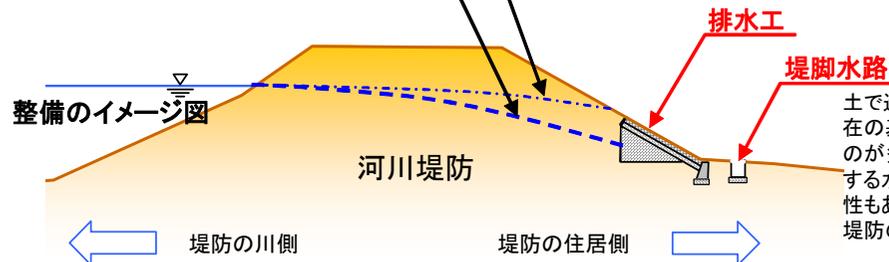
・老朽化にともない水門を改築する(分派量を再検証)



○堤防の質的整備

対策前の浸透水位（高いため堤防が壊れやすい）

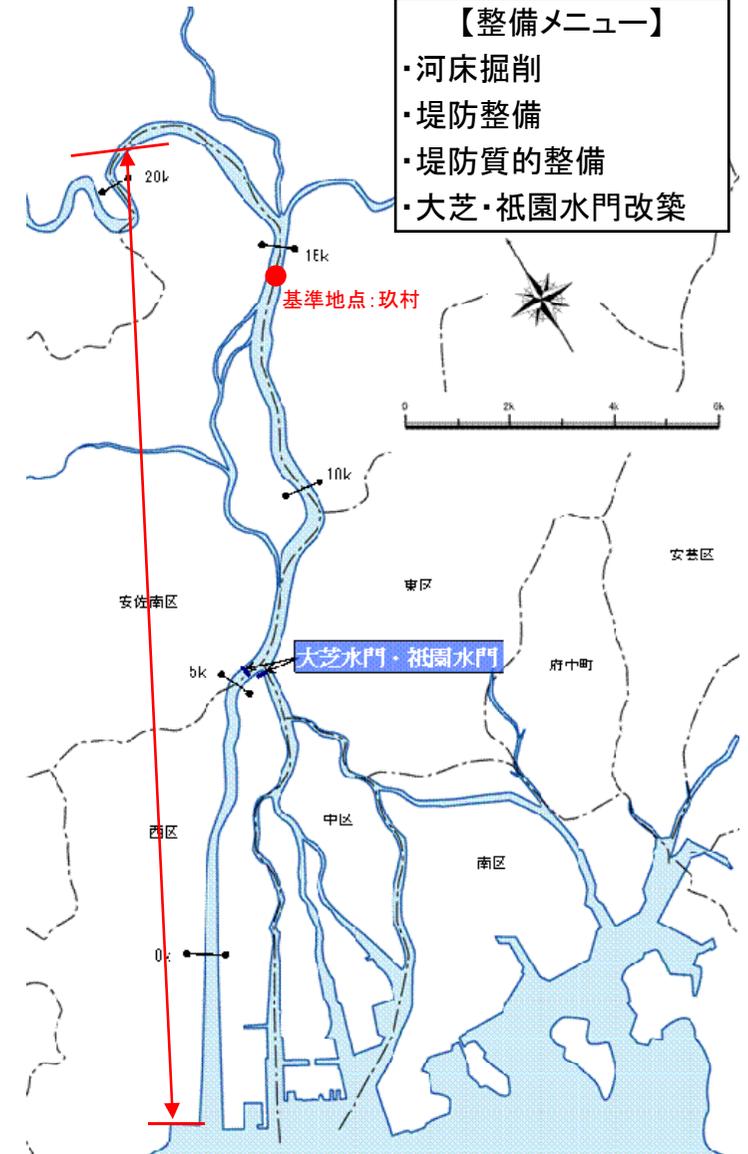
対策後の浸透水位（低くなり堤防が安定する）



土で造られた古い堤防は、現在の基準を満たしていないものが多く洪水時に内部を浸透する水によって崩壊する可能性もあるため、浸透対策として堤防の質的強化を実施

【整備メニュー】

- ・河床掘削
- ・堤防整備
- ・堤防質的整備
- ・大芝・祇園水門改築



整備対象区間(下流)

5.整備内容(2)

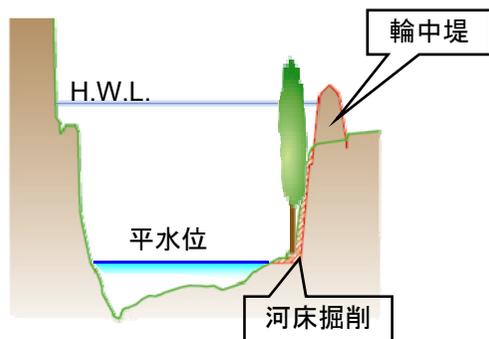
太田川中流部

【方針】計画高水流量が発生した場合でも、床上浸水等の重大な家屋浸水被害を防止するとともに、床下浸水等の家屋浸水被害を軽減

【整備メニュー】

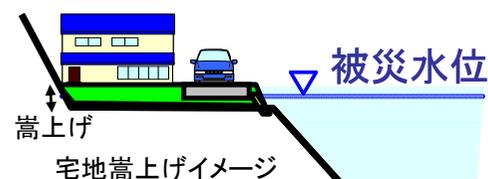
河床掘削、堤防整備、輪中堤、宅地嵩上げ

○輪中堤の整備、河床掘削



河川沿いの平地の一部に人家が立地している地区

○宅地の嵩上げ



山と河川沿いの道路に挟まれた細長い地形に家屋が存在し、道路を輪中堤として整備すると堤内の利用が困難となる地区

○連続堤の整備



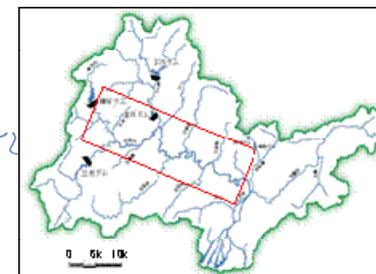
河川沿いの平地に人家が連担している地区

太田川上流域

【方針】上流域における洪水調節施設に関して、引き続き調査・検討する

【整備メニュー】

調査・検討



【整備メニュー】

- ・河床掘削
- ・堤防整備
- ・輪中堤
- ・宅地嵩上げ

整備対象区間(中流)

5.整備内容(3)

支川

【方針】

古川：戦後最大流量規模(450m³/s：“太田川合流前”地点：昭和20年9月洪水)が安全に流下できるよう河川整備を実施

三篠川：戦後最大流量(1,200m³/s：“中深川”地点：昭和47年7月洪水)が安全に流下できるよう河川整備を実施

根谷川：戦後最大洪水の平成18年9月洪水と上流の整備状況を総合的に勘案した流量(550m³/s：“新川橋”地点)が安全に流下できるよう河川整備を実施

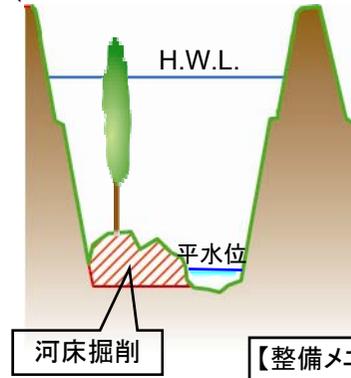
【整備メニュー】

古川：河床掘削、堤防整備

三篠川：河床掘削、堰改築、堤防整備、堤防質的強化

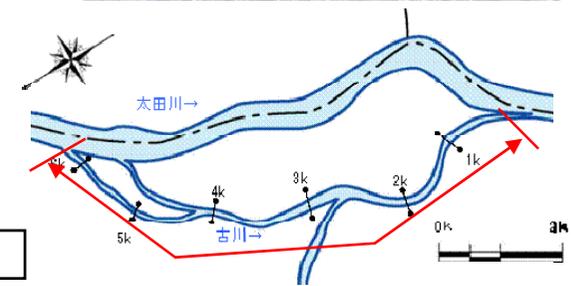
根谷川：河床掘削、堰改築、橋梁架替、堤防整備、引堤

古川(第一古川)

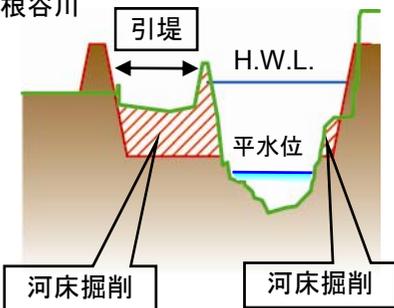


- 【整備メニュー】
- ・河床掘削
 - ・堤防整備

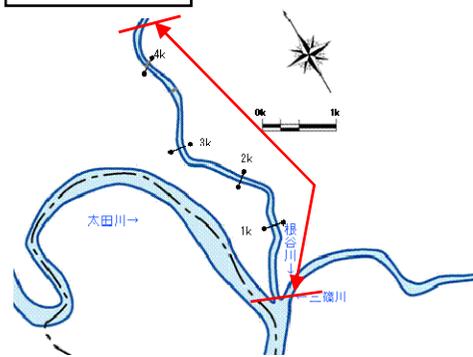
整備対象区間(古川)



根谷川



- 【整備メニュー】
- ・河床掘削
 - ・堰改築
 - ・橋梁架替
 - ・堤防整備
 - ・引堤

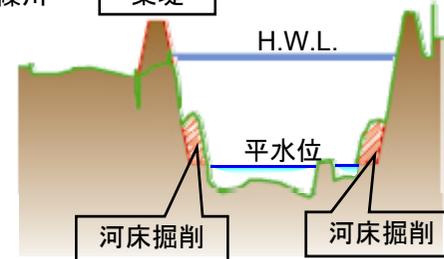


整備対象区間(根谷川)



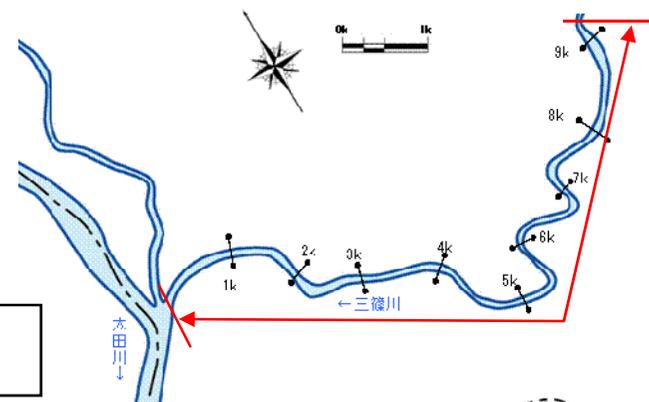
三篠川

築堤



- 【整備メニュー】
- ・河床掘削
 - ・堰改築
 - ・堤防整備
 - ・堤防質的強化

整備対象区間(三篠川)



5.整備内容(4)

高潮対策

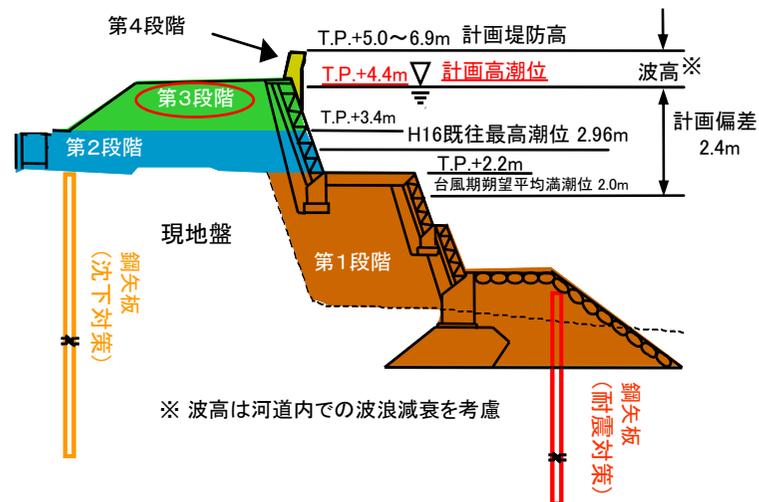
【方針】計画高潮位(T.P.+4.4m)の堤防高を確保するため、既設堤防との連続性や周辺環境に配慮しつつ高潮堤防整備を行うことにより、高潮区間の一定水準の安全度を確保する

【整備メニュー】

高潮堤防の整備

(計画高潮位までの整備を行う)

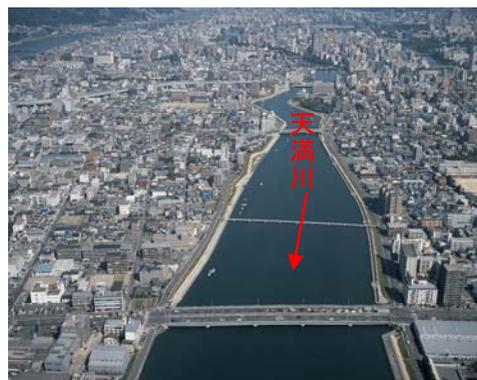
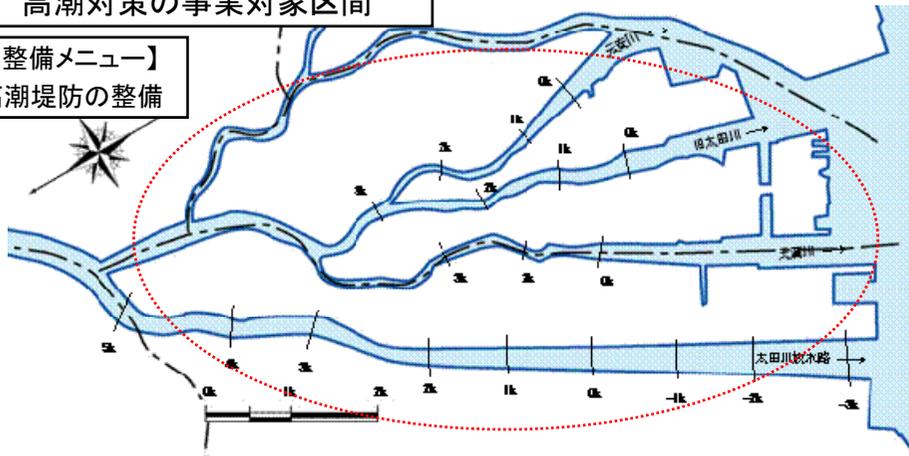
河川堤防整備状況



第3段階(計画高潮位T.P.+4.4mまでの整備を実施
高潮堤防の整備イメージ図

高潮対策の事業対象区間

【整備メニュー】
・高潮堤防の整備



天満川(整備箇所付近)



元安川・旧太田川(整備箇所付近)

5.整備内容(5)

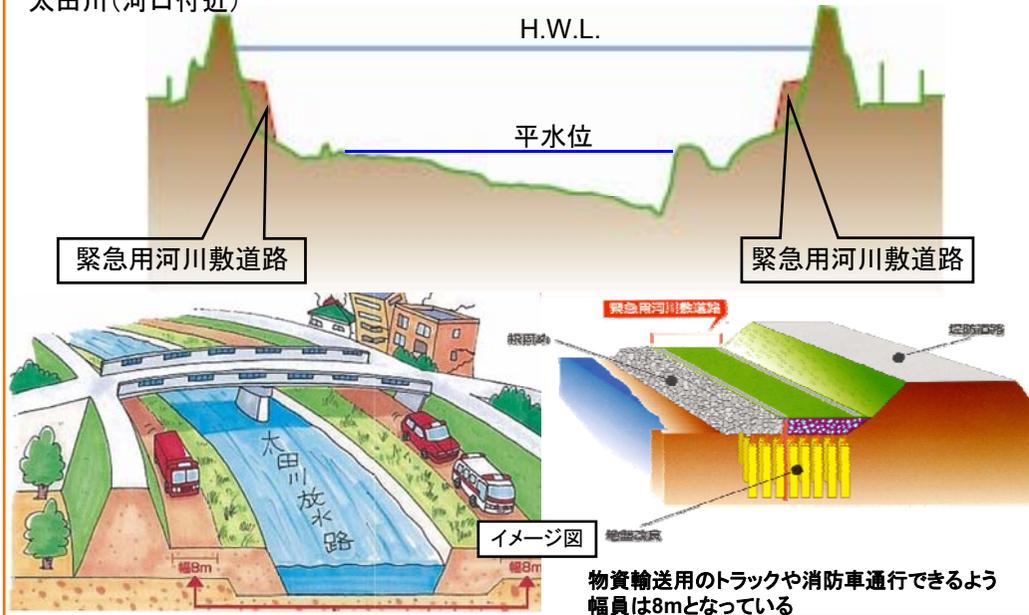
地震対策

【方針】

- ・二次災害のある箇所について耐震対策を行う
- ・地震時の車両の通行を可能にするため緊急用河川敷道路を整備する

【整備メニュー】耐震対策、緊急用河川敷道路

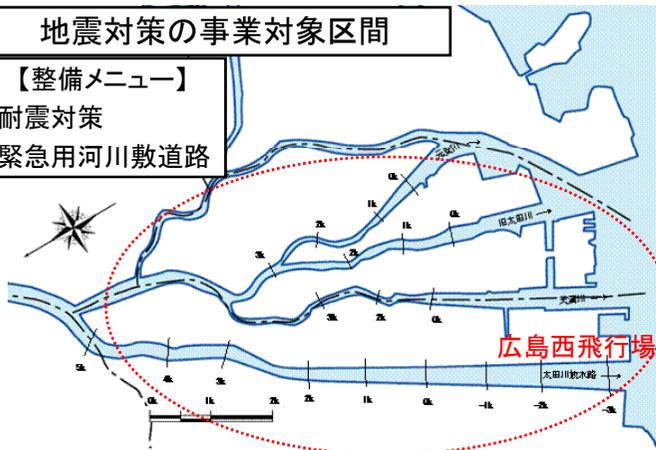
太田川(河口付近)



地震対策の事業対象区間

【整備メニュー】

- ・耐震対策
- ・緊急用河川敷道路



【緊急用河川敷道路】

河川空間を活用して、地震時の緊急車両の通行を可能にし、緊急物資の輸送や負傷者の搬送経路を確保する

緊急時に広島西飛行場と市街地を結ぶ

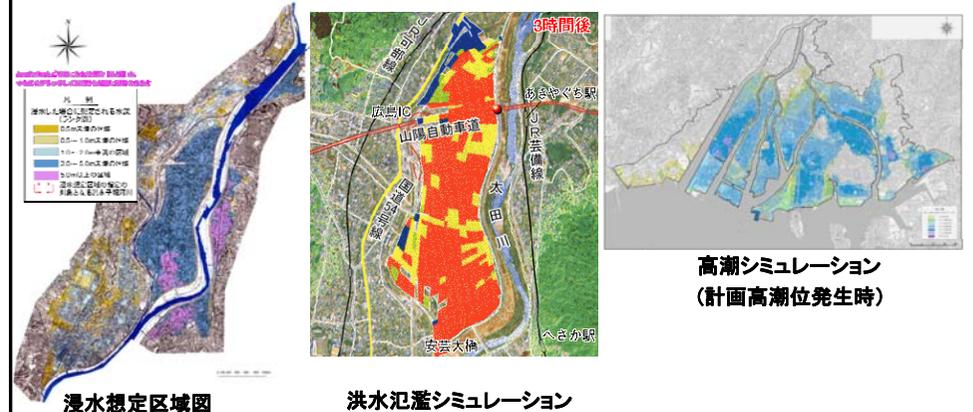
その他の対策

【方針】

災害による被害軽減を目的とした地域防災力の向上のため、住民、地域社会、関係機関等との連携の強化に努めるとともに、各種支援、住民の意識啓発のためのソフト対策等を実施

【整備メニュー】各種ソフト対策の実施

- ・災害対策室の設置
- ・浸水想定区域図や洪水ハザードマップの作成支援



- ・水防警報の発令(太田川に10箇所の水防警報発令地点)

- ・ホームページによる水文情報の提供
- ・CCTVカメラによるリアルタイム河川画像の提供
- ・洪水予報情報のメール配信
- ・水防団との情報共有
- ・防災啓発活動
- ・住民にわかりやすい防災情報提供



Ⅲ 利水・環境・河川利用・河川管理・流域に関する

対 処 方 針

1.河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

- ・「太田川渇水連絡会議」の活用による情報共有と関係機関との連携、渇水時における迅速な対応
- ・流水の正常な機能を維持するため必要な流量の確保や中流部の減水区間の流況改善を目指し、モニタリングの継続によるデータ蓄積、関係機関との調整
- ・良好な水質維持のため、ダム貯水池や河川の巡視、水質事故対応や下水道事業等関係機関との連携強化

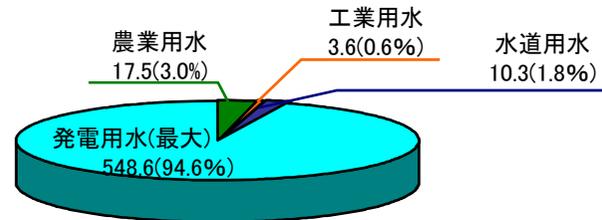
現状と課題

■広域的かつ多用途な水利用

- ・土師ダムからの導水、島しょ部への送水もある



- ・太田川の流水は、発電、工業、水道、農業などの用水として利用
- ・下流デルタ域は工業地・住宅地が密集していることから、都市用水の利用が多い

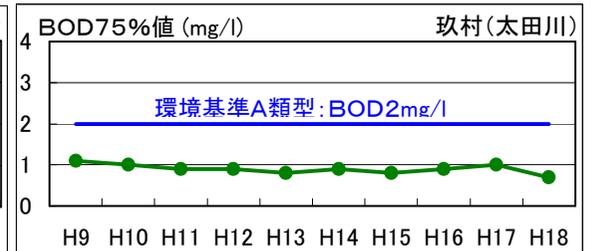
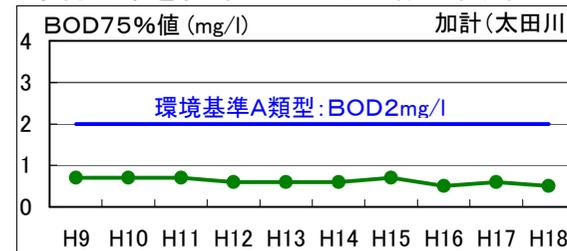


- ・太田川水系における 年間の総発電量 910,000MWh → 広島市の約半数の世帯の消費電力に相当

一方で、中流部では減水区間も存在

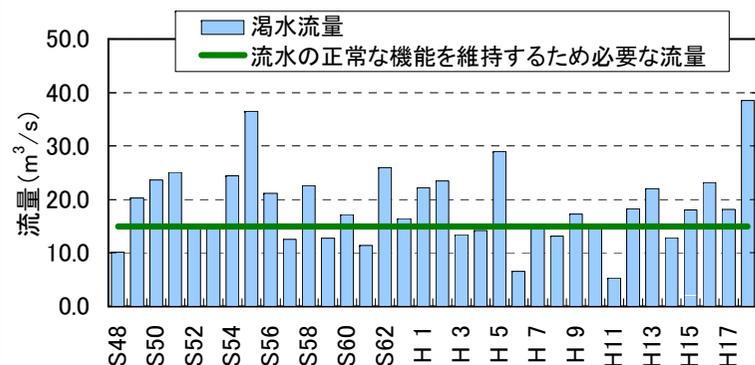
■水質

- ・環境基準を経年的に達成し概ね良好



■流況(矢口第一地点)

- ・流水の正常な機能を維持するため必要な流量(概ね 15m³/s)に対して、確保できていない年がある



【アンケートによる主な自由意見】

太田川川づくり
アンケート(H19.7~11)

【良好な水質の保全・減水区間の改善】

- ・水質も良好なようで、多くの生物も生息しているようだし、今のまま以上にきれいな川を保ってほしい
- ・太田川の水は発電に有効に利用されていることは好ましいことであるが、渇水時期には一定量の水をダムから必ず放流し、川の生態系を守る必要がある。

課題(依存度の高い太田川の渇水に対する備え、中流部の減水区間、良好な水質の維持)

住民ニーズ(きれいな川の保全、減水区間への懸念)

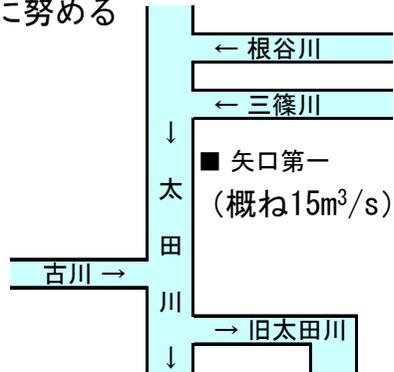
1.河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項

住民ニーズ(きれいな川の保全、減水区間への懸念)

目 標

■ 河川水の利用

- ・ 渇水時の被害軽減に努める
- ・ 流水の正常な機能を維持するため必要な流量（矢口第一地点：概ね15m³/s）の確保に努める



- ・ 中流部の減水区間の流況改善

■ 水質

- ・ 現状の良好な水質の維持

太田川での取り組み事例

《ガイドライン放流》

太田川では、「発電水利権の期間更新時における河川維持流量の確保のガイドライン」に基づき、この取り扱いに該当する水力発電所において、減水区間の維持流量の確保に努めている。



ガイドライン放流前の太田川(平成4年)



現在の太田川

実施内容

■ 河川水の利用

- ・ 「太田川渇水連絡会議」を活用した情報共有、迅速な対応が図られる体制の確保、関係機関と連携した節水や水利用の調整
- ・ 流水の正常な機能を維持するため必要な流量の確保や、中流部の減水区間の流況の改善を目指し、流況等の環境への負荷現象のモニタリングの実施、データの蓄積、関係機関の協力のもと協議を行う場の設立を図る等の調整

■ 水質

- ・ 定期的な水質検査の実施。ダム貯水池や河川の巡視
- ・ 水質事故等への対応。下水道等の関連事業や関係機関との連携強化

2.河川環境<自然環境>に関する事項

- ・良好な自然環境の保全(瀬淵やワンド、産卵場の保全、ダムフラッシュ放流のモニタリング等)
- ・干潟等の感潮域の河川環境の保全(「太田川生態工学研究会」との連携による干潟や浅場の再生ニーズへの積極的対応)
- ・流域全体の取り組み(ケイ酸塩の調査を継続)

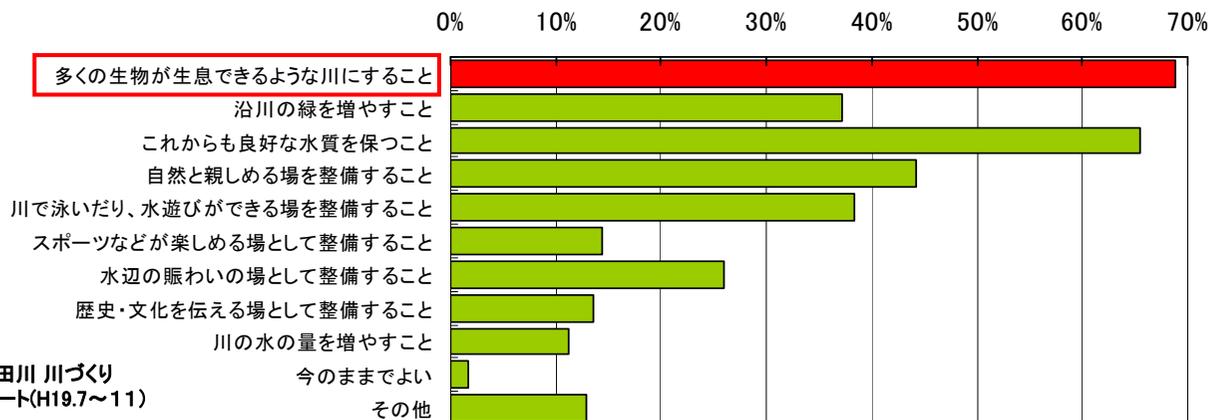
現状と課題

■さまざまな生物の生息・生育する良好な自然環境



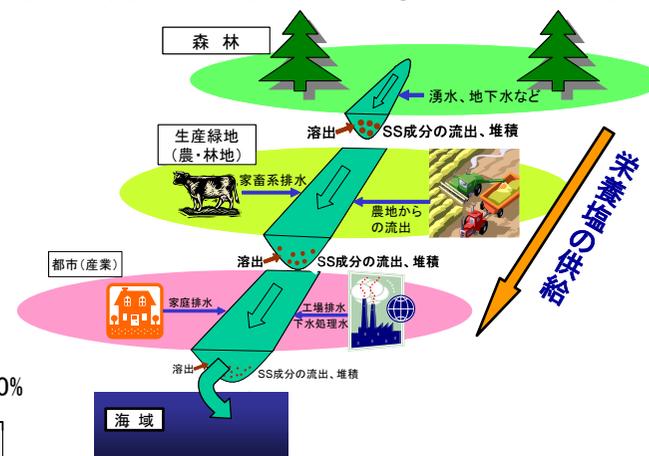
- ・重要な種として、
魚類:16種、鳥類:24種、哺乳類4種、両生類・爬虫類:6種、昆虫類26種、底生動物5種、
植物20種を確認 (※河川水辺の国勢調査による)

■アンケートでも「多くの生物が生息できる川にすること」が約7割で最多

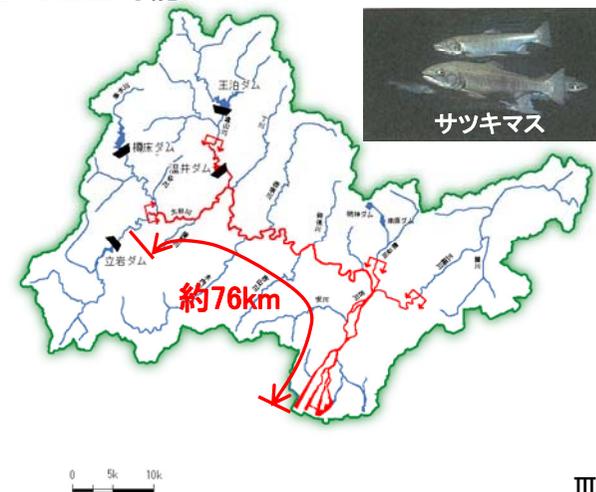


■中国山地に源を発し、広島湾に注ぐ太田川

- ・流域の森林からの**栄養塩**は川を通じて広島湾へ供給される



■アユやサツキマスは河口～鱒溜ダム(約76km)まで遡上可能



■放水路を中心に干潟や良質な砂質河床が残っている

- ・現在でも、放水路を中心に干潟が残り、塩生植物群落など特徴ある植物が生育
- ・一方で、市内派川へのヘドロの堆積、黒色化も懸念



課題(自然環境の保全、森・川・海の連携、干潟環境の保全や市内派川の環境改善)

住民ニーズ(多くの生物が生息できるような川、自然環境の保全)

2.河川環境〈自然環境〉に関する事項

住民ニーズ(多くの生物が息できるような川、自然環境の保全)

目 標

- ・ 中流部：豊かな自然環境の保全、川自らが環境を形成する空間の確保
- ・ 下流部：回遊性魚類の遡上・降下環境の改善や産卵床の保全、ワンド等の保全
- ・ 下流デルタ域：沿岸域の干潟等の保全、塩生植物群落等の生育する感潮域の保全
- ・ 自然環境の影響を踏まえた流況の改善
- ・ 森・川・海の良い繋がり意識した流域の健全な生態系の維持
- ・ 良い自然環境の保全・形成と次世代への継承

実 施 内 容

■ 自然環境の保全

- ・ 瀬淵の保全に配慮した河床掘削
- ・ アユ産卵場やワンドの保全、高瀬堰付近における魚類遡上・降下環境の改善
- ・ 水門改築時における魚道整備
- ・ 温井ダムフラッシュ放流の運用、効果の継続的把握
- ・ 中流部の減水区間の流況の改善を目指し、流況等の環境への負荷現象のモニタリングの実施、データの蓄積、関係機関の協力のもと協議を行う場の設立を図る等の調整

■ 干潟等、感潮域の河川環境の保全

- ・ 「太田川生態工学研究会」との連携による、干潟等の再生ニーズを考慮した環境保全措置への積極的な対応
- ・ 市内派川の底質改善

■ 流域全体の取り組み

- ・ 森からのケイ酸塩に着目し調査継続

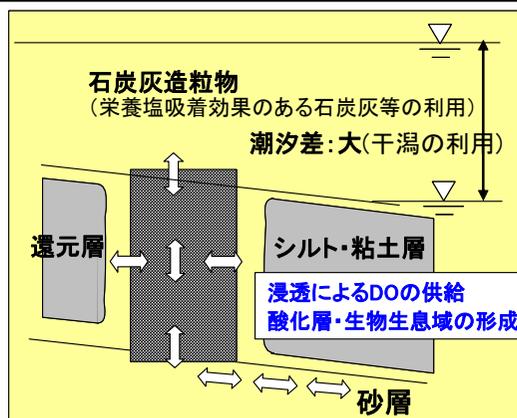
■ 底質改善に関する取り組み

〈メカニズム〉

- ①石炭灰を用いて作成した浸透柱を有機泥(シルト・粘土)層の下に堆積する砂層まで貫入
- ②潮汐の干満を利用して浸透柱内の水循環を生起
- ③水循環が起こることにより堆積泥内に酸素を供給



生物生息環境の向上を向上させることで、生物による堆積泥処理効果が期待できる。



魚道改善の取り組み例 ~津伏堰~



津伏取水堰(中央)



津伏取水堰(左岸)

太田川の良い自然環境の保全



古川の整備イメージ(3.3k付近:東市橋付近より上流を望む)



干潟再生に向けた取り組み ~太田川生態工学研究会~

- ・ 学識経験者等から構成する「太田川生態工学研究会」を開催
- ・ 太田川放水路と市内派川の物理環境の解明や、放水路の干潟における生態生息環境調査・研究等を実施
- ・ 海水・汽水域での干潟の役割の解明と、保全・再生を目指す

3.河川環境〈景観〉に関する事項

- ・「水の都ひろしま」のシンボルとなる都市景観を形成している河川景観の保全・創造
- ・中流部の自然的景観、下流・下流デルタ域の都市的景観と調和した川づくりと景観悪化の一要因である不法係留対策

現状と課題

■太田川の河川景観の特徴

- ・可部を境に上下流で景観が大きく異なる（上流側：自然的景観、下流側：都市的景観）

柳瀬付近の様子
(20k～22k付近)



可部付近の様子(16k～17k付近)



可部市街地



平和都市「ひろしまの象徴」
(元安川と原爆ドーム・平和祈念公園)



・山間狭隘部に点在する集落
(中流部)

・景観を考慮した先駆的事例 ～基町環境護岸～

広大な河川空間の有効利用を図るため、
昭和54年～昭和58年に整備

- ・治水と親水性の他、景観も考慮した護岸整備
- ・特に景観に関しては先駆的事例
- ・(社)土木学会より、2003年度に「土木学会デザイン賞」の「特別賞」を受賞

昭和50年頃の様子



平成15年頃の様子



■不法係留

不法係留は、河川景観だけでなく、
流水阻害が懸念され、河川の水位
の上昇を招き氾濫被害を助長する
恐れがある

無秩序な係留



【アンケートによる主な自由意見】

太田川 川づくり
アンケート(H19.7～11)

【自然景観、都市景観として美しい太田川にしたい】

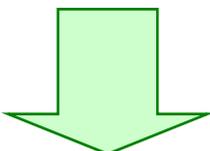
- ・さらに美しい太田川になるよう周りの住民が協力する必要があると思う
- ・自然のままの姿で残せるところはできるだけ残すようにしてほしい
- ・今のきれいな水質を維持しながら景観的にもきれいで安全な川であってほしいと思います
- ・四季を通じて広島自慢できる川として県外の人に紹介できる川

3.河川環境〈景観〉に関する事項

住民ニーズ(さらに美しい太田川になるように、広島県の自慢できる川としての整備)

目 標

- ・ 太田川の景観的特徴（中流部の自然的景観、下流部の都市的景観等）を次世代に継承するため、地域の特徴を踏まえた周辺環境と調和した河川整備
- ・ 秩序ある水面利用を促し「水の都ひろしま」のシンボルとなる都市景観を形成している河川景観の保全、創造



実 施 内 容

- 中流域の自然的景観、下流・下流デルタ域の都市的景観と調和した川づくりと景観悪化の一要因である不法係留対策
- ・ 地域の景観に配慮した護岸等の整備
- ・ 不法係留船対策の推進

「水の都 ひろしま」の取り組み例



河岸緑地のオープンカフェ(元安川)



高潮堤防による親水護岸の整備



親水テラス



水辺のコンサート

不法係留対策(太田川マリーナ)



太田川マリーナの完成予想図

4.河川利用に関する事項

- ・地域づくりと一体となった川づくり(中流部や支川での親水空間整備、環境教育の実施、不法投棄に対する啓発活動の実施等)
- ・中流部の地域振興の一助となるよう、温井ダム等を活用した地域と一体となった水辺整備
- ・快適で、安心して利用できる川づくり(水に親しむ活動を関係機関と連携して実施、安全な河川利用の推進等)
- ・泳ぎ遊べる川づくり(「水の都ひろしま」構想に基づく河川整備の推進)

現状と課題

■水の都ひろしま構想



【構想の基本方針】

- ☆つかう (市民による水辺の活用)
- ☆つくる (水辺空間整備とまちづくりの一体化)
- ☆つなぐ (水辺のネットワークと水の都の仕組みづくり)

■いろいろな目的で利用される河川空間

上・中流部

- ・豊かな自然環境、多くの観光客、アユ釣り、水遊びなどの家族連れの訪問

下流部

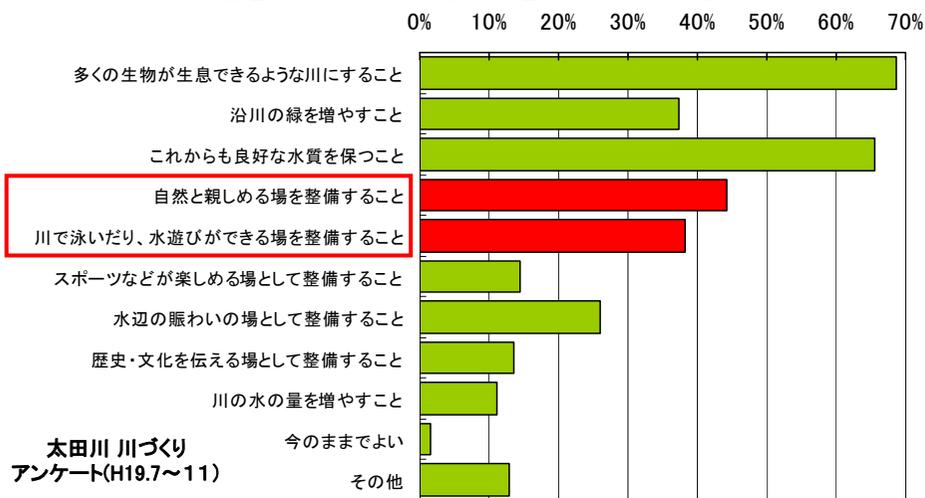
- ・広い河川敷では親水空間が整備済
- ・各種イベントの開催

下流デルタ域

- ・沿川の原爆ドーム等は、平和都市広島の特異な空間
- ・下流デルタ域の干潟等は、シジミ採り等、河岸緑道は散策等で市民利用が盛ん

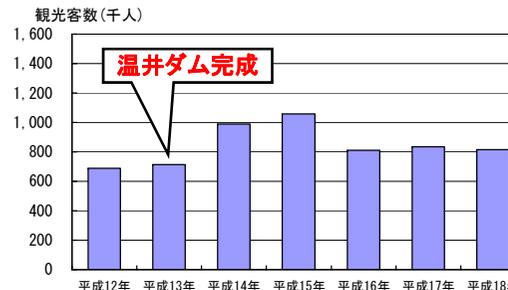


■川づくりアンケートでは、「自然と親しめる場を整備すること」、「川で泳いだり水で遊んだり出来る場を整備すること」などを望む回答が多い



■地域の重要な観光資源になっている温井ダム

- ・温井ダム完成(平成13年)後、安芸太田町の観光客数が増加
- ・温井ダム建設中に開催された「温井ダムまつり」は平成14年より「龍姫湖まつり」として地域に定着
- ・温井ダムの観光放流(夏期制限水位への移行時)等では多くの観光客が訪問



安芸太田町の観光客数の推移(平成12年~平成18年)

出典:地域再生計画(広島県、安芸太田町、北広島町)、ひろしま観光立県推進基本計画より作成



課題(川との繋がりや水辺の賑わいの回復、利活用の推進、水の都ひろしま構想の推進)

住民ニーズ(自然と親しめるような空間、川で泳いだり水遊びができるような空間)

4.河川利用に関する事項

住民ニーズ(自然と親しめるような空間、川で泳いだり水遊びができるような空間)

目 標

- ・自然環境を活かした、自然とのふれあい、環境学習が出来る機会の増加
- ・より快適な河川空間の形成
- ・「水の都ひろしま」にふさわしい、賑わいや、都市部の個性と魅力ある水辺の創出

実 施 内 容

- 地域づくりと一体となった取り組み
 - ・中流部や支川での親水空間整備
 - ・環境教育、河川愛護活動、「クリーン太田川」の継続的实施
 - ・不法投棄や洪水時のゴミの速やかな撤去
 - ・不法投棄等の違法行為に対する監視及び啓発活動の実施
 - ・温井ダム等を活用した地域と一体となった水辺整備
- 快適で、安心して利用できる川づくり
 - ・地域住民やNPO等関係機関との連携による水に親しむ活動の実施
 - ・安全な河川利用の推進
 - ・橋梁部分のアンダーパス化、親水護岸整備
- 泳ぎ遊べる川づくり
 - ・「水の都ひろしま」構想に基づく、市民、関係機関と協力した河川整備の推進
 - ・市内派川の底質改善



水辺の楽校の整備イメージ図



クリーン太田川の様子



【整備前】

橋により分断された遊歩道



【整備後】

アンダーパスの利用状況

アンダーパスの整備例（北大橋）

5.河川管理に関する事項

- ・河川管理(河川管理本来の機能の発揮、良好な状態の維持等)
- ・不法係留、不法投棄への対策(関係機関と連携した不法係留船対策及び不法投棄対策の実施)

現状と課題

■土砂堆積や樹木群の繁茂

- ・砂州や河道内樹木は、生物の生息・生育環境や景観面から存在意義はあるものの、流水阻害の要因となることがあり、必要に応じて維持浚渫や樹木群の伐開を実施



樹木群が繁茂
⇒洪水時の流れを阻害

■不法係留・不法投棄

- ・不法係留や不法投棄は、河川管理上の障害となるだけでなく、河川景観を阻害し、さらに維持管理費用の増大にもなる



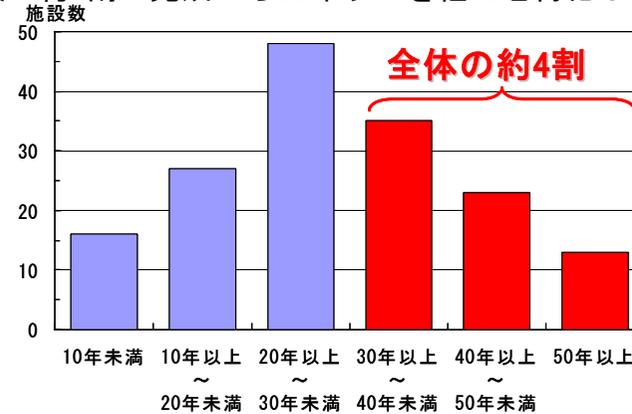
中州に座礁し放置されたボート(旧太田川)



不法投棄物の引き揚げ作業

■河川管理施設の老朽化

- ・河川管理施設の約4割が完成から30年以上を経て老朽化している



河川管理施設設置後の経過年数(太田川：国管理区間)

【「太田川 川づくりアンケート」による河川管理に関する意見】

太田川 川づくり
アンケート(H19.7~11)

- ・川の中に雑木が生えたまま放置されており、大雨の際の流れの阻害になっている。
- ・下流域に多くのレジャーボートの係留があるが、これらがしっかり管理されているのか？
- ・川が創り出した広島市ですが、その太田川をしっかりと管理できていない気がします。水の汚れ、川底の浚渫、ゴミの回収、汚水の流入防止、まだまだ不十分だと思います。
- ・広島にとってとても重要な水資源を持っている川なので、維持管理を徹底していかなければならない。
- ・現在の広島県西部の発展は太田川なくてはありえなかった。それほど太田川の維持・管理・整備は重要であると思う。
- ・水の利用など広島には絶対に必要な大切な川なので、安全安心ができる管理をお願いしたい。川を使って楽しむ側もマナーを守る。
- ・地域住民が自慢できる川として管理維持を期待する。
- ・現在の各種機能、環境を維持しつつ、今後の社会の動向、環境の変化に対応した適切な維持、管理、整備を慎重に行なうことが望まれる。
- ・平時は自然に近く、緊急時には管理しやすい河川としての整備を望みます。

課題(河道内樹木・土砂堆積への対応、河川管理施設の維持管理、不法投棄・係留対策)

住民ニーズ(治水上適切な管理、樹木管理や不法係留対策)

5.河川管理に関する事項

住民ニーズ(治水上適切な管理、樹木管理や不法係留対策)

目 標

- ・河川管理施設の本来の機能の発揮、良好な状態の維持
- ・許可工作物等による治水上の障害発生防止
- ・良好な自然環境、優れた都市景観と調和した、秩序ある河川空間の形成

実施内容

■太田川の特徴ある河川管理

- ・重要水防箇所等を中心に監視を行い、堤防や護岸に異常が認められた場合には、速やかに補修等を実施
- ・水門・堰の適切な機能の確保のため、施設周辺の河道内樹木や堆積土砂の管理と必要に応じた対策の実施
- ・洪水による河道内樹木の倒伏状況や、土砂堆積の状況を把握するとともに、必要に応じた対策の実施
- ・不法係留船等により洪水の流下阻害が生じる恐れがあるため、不法係留対策を実施
- ・魚道の状況等を把握し、魚類等の移動環境が適切な状態に保たれているか把握するとともに、必要に応じた対策の実施

■その他

- ・太田川水系維持管理計画の作成及び適正な運用
- ・河川巡視、堤防点検、不法投棄対策の実施
- ・治水上支障が生じる恐れがあると判断される許可工作物等に対し、指導・適切な対処を要請
- ・河川管理施設の長寿命化、機能維持のための改善、更新
- ・除草等の適切な実施による外来種の除去 等

異常時における迅速な復旧対応

旧太田川左岸吉島地先
(広島市中区)



高潮と波浪(H16.9台風18号)により崩壊した高潮堤防を、被災後すぐに応急復旧に着手し、被災10時間後という短時間で、応急復旧を完了。

祇園水門・大芝水門周辺の適切な管理の実施



洪水による樹木群の倒伏状況や砂州の洗掘状況の調査を実施



不法係留対策の実施



出水時に橋梁に引っ掛かる不法係留船舶(旧太田川・住吉橋)



「魚がのぼりやすい川づくり」事業による魚道の改善例



堀下頭首工の例(アイスハーバー式魚道の設置)

河川巡視や堤防点検の実施



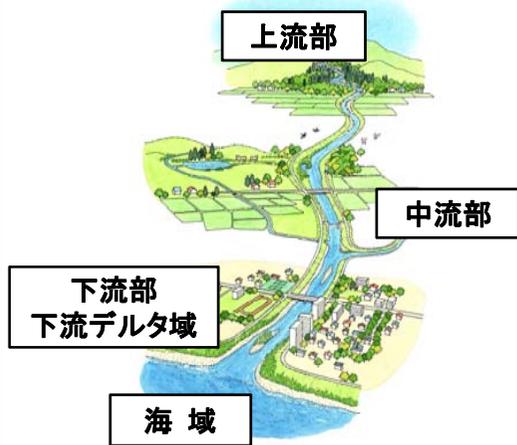
6.流域に関する事項

- ・森林・河川・海域それぞれの関係機関や地域住民と協力し、広く流域の状態の把握に努める
- ・わかりやすく積極的な情報提供

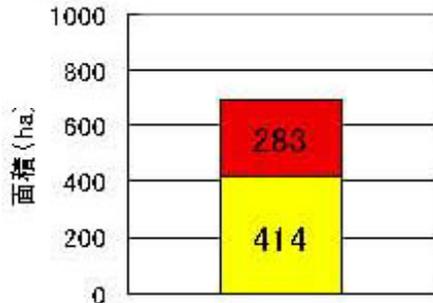
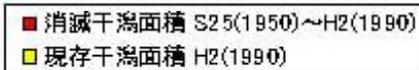
現状と課題

■森・川・山の連続性

- ・国管理区間だけに限らず、流域全体で考えていくことが求められている

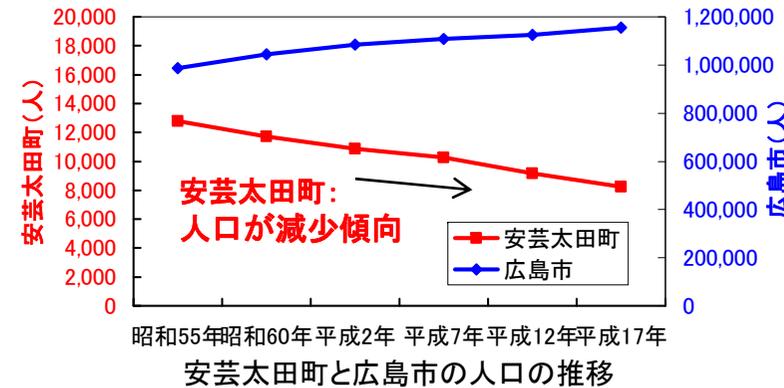


■環境の悪化が進む沿岸域



広島湾における干潟面積の推移

■地域活力の低下



■連携・市民活動



市民団体による草刈り



映画の撮影

■住民への広報・幅広い広聴



第1回 太田川河川整備懇談会



太田川 川づくりアンケート

■賑わいのある水辺創出への期待



こいっこふれあいの水辺

【「太田川 川づくりアンケート」による 「情報提供・海川山の連携・上下流交流・水辺の賑わい」】

- ・管理する側の危機意識の向上や、生活するわれわれの意識も変えなければならぬときでしょうか。行政の積極的な対応と情報の開示を期待しています。
- ・環境という視点で総合的な対策を持って生活と一体となったものに。山林整備(落葉樹)をして、川へ海へ栄養のある流水を。
- ・太田川を活用したスポーツ、文化などのイベント、上流地域と中・下流地域の交流・連携
- ・人々が憩い集うことができる水辺の賑わいの場を整備してはどうでしょうか

太田川 川づくり
アンケート(H19.7~11)

課題(流域全体で河川を考える必要性、沿岸域への配慮、さらなる広報・広聴活動の推進)

住民ニーズ(太田川の情報提供への要望、海・山・川の連携、上下流の交流や連携、水辺の賑わいの場)

6.流域に関する事項

住民ニーズ(太田川の情報提供への要望、海・山・川の連携、上下流の交流や連携、水辺の賑わいの場)

目 標

- ・流域の発展のため、森、川、海、流域全体で考え、森と海を繋ぐ回廊である太田川をよりよい川になることを目指す
- ・太田川に対する理解の促進
- ・透明性、公平性を確保し、学識者、地域住民など幅広い方々から積極的に意見を聴取

実 施 内 容

- 森・河川・海域の関係機関や地域住民との協力
 - ・ 広島湾再生推進会議等、関係機関と連携した川づくり
 - ・ 水質保全活動、自然環境保全活動、普及啓発活動に関する事業への必要な情報提供等の支援
 - ・ 市民団体への活動紹介や支援
 - ・ 太田川河川事務所ホームページによる自然環境、イベント情報など各種情報の発信
 - ・ 河川愛護等の意識啓発活動の実施
 - ・ 河川の生物や水質データの継続蓄積
- わかりやすく積極的な情報提供
 - ・ 出前講座等の広報活動
 - ・ 報道機関の協力による積極的な情報提供
 - ・ GoGiルームの必要に応じた改善
- その他
 - ・ 学識懇談会、住民意見を聴く会、太田川住民アンケートの活用、GoGiルーム内に設置されたオープンハウス等を通じた意見聴取



事務所ホームページによる情報発信



GoGiルーム(事務所1F)



出前講座



第1回太田川住民意見を聴く会の様子
(東区 戸坂公民館)



こどもモニター(中州の自然観察)